

授業科目名 : マクロ数量分析特研 I (経510A)		講義コード : 16173001
講義題目 : Applied Econometrics I		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 : To be interested in applied econometrics		
キーワード : Econometrics		
<b>授業の概要 :</b> Read academic papers on theoretical and/or applied econometrics.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read and understand academic papers in econometrics		
<b>個別の教育目標 :</b> To develop an ability to understand and use techniques in econometrics		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2.-15. Presentation and discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar		
<b>テキスト :</b>		
<b>参考書 :</b> Selected papers		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Presentation and discussion		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/03/16 16:42:15		

授業科目名：西洋経済史特研 I (経510A)		講義コード：16173002
講義題目：グローバル経済史の探究		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：藤井 美男
履修条件：西洋経済史の基礎知識のあること。		
キーワード：グローバル経済史、世界経済史、西洋経済史、近代化過程		
<b>授業の概要：</b> グローバル経済史のテキストを輪読の形で精読する。それを通じて、資本主義世界が世界経済史として形成されてくる過程を学ぶ。 Through the reading of textbook on the Global Economic History, you can understand the formative process of the Capitalism as a historical World-System.		
<b>全体の教育目標：</b> 西洋経済史の基礎知識を前提として、テキストを中心に、資本主義世界の史的形成過程をグローバル経済史という視点から読み解く。		
<b>個別の教育目標：</b> テキストの講読を軸に、内外の文献を渉猟・講読することを通じて、世界経済史の成立過程を学ぶ。		
<b>授業計画：</b> 第1回 テキストと授業の概要を説明。 第2回以降 受講者による指定箇所の輪読と解題。		
<b>授業の進め方：</b> 授業の進め方は受講者の数に大きく左右されるが、とりあえず、演習形式の輪読という方針で上記のように進める。		
<b>テキスト：</b> 杉山伸也『グローバル経済史入門』		
<b>参考書：</b> ロンド・キャメロン/ラリー・ニール (著) 速見融 (訳) 『概説世界経済史 I・II』 (東洋経済新報社)		
<b>学習相談：</b> オフィスアワー随時。メールで事前に予約のこと。fujii@econ.kyushu-u.ac.jp		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席80%、平素の受講態度20%で評価する。		
<b>その他：</b> 【EU-DPs 科目分類】 (B) 歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) に開放されています。http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。		
<b>更新日付：</b> 2016/03/29 11:39:18		

授業科目名：管理会計特研 I (経510B)		講義コード：16173003
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：丸田 起大
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 米国のMBAレベルのテキストを用いて、管理会計知識の国際標準や実務の国際比較などについて検討します。 必要に応じて、論文などの追加教材を配布します。 Let's read textbook of management accounting in MBA course in US.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 1. ガイダンス 2. 原価計算 3. CVP分析 4. ABC 5. 差額原価収益分析 6. 価格決定 7. 資本予算 8. 予算管理 9. 原価管理 10. 責任会計 など		
<b>授業の進め方：</b> テキストの章や論文を割り当てて発表してもらい、ディスカッションします。		
<b>テキスト：</b> ジャンバルボ『管理会計のエッセンス 新版』同文館出版。		
<b>参考書：</b> 講義中に適宜紹介します。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> レポート 60% 出席状況・参加態度 40%		
<b>その他：</b> 問い合わせ先：maruta@econ.kyushu-u.ac.jp		
<b>更新日付：</b> 2016/09/15 18:19:55		

授業科目名：上級産業構造 (P10)		講義コード：16173004
講義題目：中国の産業構造・産業組織分析		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：堀井 伸浩
履修条件：特に設定しない。		
キーワード：産業構造、産業組織、産業経済論、中国		
<b>授業の概要：</b> 授業の前半において産業経済論の概要について教員が講義を行い、それを踏まえて、後半においては履修者がそれぞれ個別具体的な産業を選択し、産業経済論、特に産業組織論の分析枠組みに沿ってその産業に関する分析を行う演習方式で授業を進める。演習で分析するのは中国の産業であるが、日本を始めとする外国との比較を通じて客観的な分析を行う。講義を聞くだけではなく、自ら資料を渉猟し、データを集めてプレゼンテーションする必要があるため、積極的な授業への参加態度を求める。 In this class, firstly the basic concept and method is lectured and then participants are required to make presentation about comparative case study of some specific industry for two countries, such as Japan and China. Through the preparation of the presentation, participants are expected to learn the basic method of industrial economics in a practical manner.		
<b>全体の教育目標：</b> 産業経済論の分析手法を実践的に習得する。		
<b>個別の教育目標：</b> 中国産業構造・組織の変遷を産業経済論の手法を用いて実際に分析する。		
<b>授業計画：</b> 第1回 オリエンテーション 第2回～第6回 産業経済論に関する講義 第7回～第14回 履修者による個別産業に関する発表（演習） 第15回 まとめ		
授業の進め方：前半は講義形式、後半は演習方式にて授業を進める。		
テキスト：適宜、別途指定する。		
参考書：適宜、別途指定する。		
学習相談：随時相談に乗るが、事前にメールで予約が望ましい。		
試験／成績評価の方法等：出席30%、発表40%、発表内容とその時のディスカッションを反映したレポート提出40%で評価する。期末試験は行わない。		
その他：特になし。		
更新日付：2016/09/17 20:15:07		

授業科目名：応用数理Ⅱ (P11)		講義コード：16173005
講義題目：離散最適化		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：小野 廣隆
履修条件：数理計画の基礎（線形計画その他）を理解していること。		
キーワード：講義と調査（研究）発表により組み立てる（第1回の履修人数により、方針を決定）。		
<b>授業の概要：</b> 「最適」の概念は（数理）経済学分野において頻繁に現れる概念である。この授業では、広い意味での数理計画モデルにおける最適解とその導出について、モデル化と計算コストの観点から学ぶ。 The notion "optimal" frequent appears in the field of economics. In this lecture, we learn about the optimality in mathematical programming models and how we find optimal solutions from the viewpoint of modeling and computational time.		
<b>全体の教育目標：</b> 最適化手法の原理，その正当性，適用の範囲などについて、特に「計算」の立場から理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 各テーマにおける「問題」「モデル」「解」、そして「解法」を理解した上で、それに対する計算容易性，計算困難性を理解する。		
<b>授業計画：</b> 1. ガイダンス 2～5. 数理計画モデルとその問題 6～10. 組合せ計画問題・モデルとその解法 11～15. その他の最適化問題・モデルとその解法		
授業の進め方：講義形式		
テキスト：		
参考書：茨木俊秀・福島雅夫「最適化の手法」共立出版		
学習相談：メールにてアポイントメントをとること。		
試験／成績評価の方法等：出席とレポートによる評価。		
その他：		
更新日付：2016/09/23 13:24:42		

授業科目名：労務管理特研 I (P11)		講義コード：16173006
講義題目：日本の人事労務管理		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：遠藤 雄二
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 人事労務管理等に関する文献を各自が報告する。 Report on your own theme concerning human resources management ,and so on.		
<b>全体の教育目標：</b> 日本企業の人事労務管理について多面的に理解する。		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 第1部 企業経営と人事労務管理 第2部 採用から定年までの仕事 第3部 職場の男女平等とディーセントワーク 第4部 日本の人事労務管理：20世紀と21世紀		
<b>授業の進め方：</b> ゼミ方式		
<b>テキスト：</b> 随時、紹介する。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 報告と討論内容で評価する。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/26 10:31:37		

授業科目名：日本語経済特研 I (P20)		講義コード：16173007
講義題目：日本語経済(日本語文献講読)		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：儲 梅芬
履修条件：積極的な姿勢で参加すること。		
キーワード：日本語、英語、世界経済、レポート		
<b>授業の概要：</b> 留学生を対象とする本講義は、日本語能力の向上と世界経済に対する理解の伸展を目的としている。特に、現代の金融危機などの課題および政策に関する知識を習得し、関連する経済理論を理解すると同時に、基本的な統計分析手法を身につけることを目的とする。受講生の希望によっては日本語での統計演習の時間を設けることも可能である。さらに、日本語論文の読解力を高めるとともに、日本語で作文能力を養成する。 This course is open to international graduate students. It is aimed to help students understand Japan's Economy in Japanese or English, and assist students in writing master's theses. The methods of master's writing theses in Japanese or English will be explained, and the basic mathematical statistics will be taught and practiced. Students are required to make presentations related to the world economics or international finance. After completing the course, students are expected to improve their writing skills in Japanese or English.		
<b>全体の教育目標：</b> 日本語で世界経済の課題を習得し、理解する。		
<b>個別の教育目標：</b> 日本での修士学位または博士学位を取得するという自覚を喚起		
<b>授業計画：</b> 1. オリエンテーション(受講生の要望を聞く) 2-7. 世界経済に関する文献を講読・解説(使用文献は基本的に日本語文献である。解説 や討論時には、英語も可能) 9-13. 統計分析手法に関する文献を講読・解説 14-15. 未定・予備(最低一度は実地調査を行う予定)		
<b>授業の進め方：</b> 前半は講義形式、後半はゼミ形式で授業を進める。ただし、受講者数によって変更する場合もあり得る。		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> 適宜、資料・レジュメ配布する。		
<b>学習相談：</b> 随時対応		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席および平常点:70%、レポート:30%		
<b>その他：</b> 無断欠席はしないこと。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/30 16:36:26		

授業科目名：確率モデル解析特研 I (P21)		講義コード：16173008
講義題目：確率微分方程式		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：松本 浩一
履修条件：線形代数，微分積分，確率解析に関する専門知識		
キーワード：確率解析，数理ファイナンス，金融工学		
<b>授業の概要：</b> 確率モデルを活用する際に有用な道具となる確率微分方程式に関して学習を行う。確率積分，確率微分方程式について概観した後，現実の問題への応用方法について学習する。本講義は特にファイナンスへの応用を重視しており，時間に余裕があれば数理ファイナンスの基礎理論についても学習する。 This lecture is a seminar on stochastic calculus and its application.		
<b>全体の教育目標：</b> 確率微分方程式の応用方法の習得		
<b>個別の教育目標：</b> 確率積分の基礎知識の習得		
<b>授業計画：</b> 講義では Stochastic Differential Equations: An Introduction With Applications を分担して精読し，確率微分方程式とその応用方法を学習する。なお，教科書は受講者と相談のうえ，変更する可能性もある。		
<b>授業の進め方：</b> 教科書を分担して担当者が説明し，質疑応答を行うセミナー形式で行う。		
<b>テキスト：</b> Bernt Oksendal, Stochastic Differential Equations: An Introduction With Applications, 6th 版, Springer Verlag, 2003		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の授業での報告，質疑応答を総合的に評価する。		
<b>その他：</b> 受講者は，受講前に上記テキストの1～3章の内容を独習しておくこと。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/15 13:43:38		

授業科目名：原価計算特研Ⅱ（経209）		講義コード：16173009
講義題目：原価計算・管理会計の基礎と応用		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：大下 丈平
履修条件：特になし。		
キーワード：原価計算、管理会計、マネジメント・コントロール、制度学派、管理会計変化論、フランス		
<p><b>授業の概要：</b>  欧米先進諸国を初めとして、原価計算・管理会計の領域においては膨大な研究成果が蓄積されてきた。本講義「原価計算特研Ⅱ」はこうした領域の研究史の一端を理解させることによって一定の原価計算研究の方法を獲得させ、それによって受講生に現代原価計算・管理会計の諸問題を整理し、分析するために必要な視点を獲得させることを目的とする。こうした学説史／研究史をフォローする場合、受講生の希望によって特定の時代や分野を選定し、集中的に議論を行うことも考えられる。今年度は、まず西村明氏（九州大学名誉教授）のこれまでの膨大な業績を</p> <p>Not only in the West but also in Japan, the tremendous volumes of research have been accumulated for a long time in the areas of cost accounting and management accounting. This class provides some part of research history and some methodologies of the domain and based on them, it intends to make students gain some perspectives that are required for the students to organize and analyze modern cost accounting and management accounting problems. It is also possible, in the class, to select specific times and areas depending on the student initiative and after have a discussion intensively. This year, we have an intention to read a part of the vast works of Akira Nishimura (Emeritus Professor, Kyushu University).</p>		
<b>全体の教育目標：</b> 九州大学に独自の原価計算・管理会計的方法的な特徴を理解する。そして、その意義を他の方法論と比較するなかで理解させる。		
<b>個別の教育目標：</b> 現代経営における管理会計・原価計算の考え方、ツール、役割を習得させる。		
<b>授業計画：</b> まず西村明氏の著作を輪読していく。その後は、標準原価計算の歴史を学んだあと、いま盛んに議論されるようになったイギリス制度学派の管理会計研究に関する英語文献を輪読する予定である。		
<b>授業の進め方：</b> 毎回レポーターを1名決めて、そのレポーターの報告に沿って議論を進めていく。もっとも各自の研究が進めば、いつでも論文報告会に変更することができる。		
<b>テキスト：</b> 西村明著『会計の統制機能と管理会計』同文館、2001年、岡本清著『米国標準原価計算発達史』白桃書房、1969年など。		
<b>参考書：</b> 講義の中で、随時紹介する。		
<b>学習相談：</b> 随時に行う。事前にメールでアポイントを取ってください。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績による。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/03/28 15:11:32		

授業科目名 : 数理統計学特研 I (106)		講義コード : 16173010
講義題目 :		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 大西 俊郎
履修条件 : 線形代数学, 多変数の微分積分学, 基礎的な数理統計学を習得していること.		
キーワード : 最尤推定, 十分統計量		
<b>授業の概要 :</b> 統計学はデータから効果的に情報を抽出する方法を論じる学問分野であり, 確率論などの数学を用いて理論的にアプローチするのが数理統計学である. この授業では次の項目を学ぶ. <ul style="list-style-type: none"> <li>・最尤推定</li> <li>・十分統計量</li> </ul> Statistical science discusses how to extract information from data efficiently. Mathematical statistic, which is one of its branches, takes theoretical approaches to this problem by applying mathematics such as probability theory. We learn the following notions in this lecture. <ul style="list-style-type: none"> <li>* Maximum likelihood method</li> <li>* Sufficiency</li> </ul>		
<b>全体の教育目標 :</b> 数理統計学の諸概念を学ぶ		
<b>個別の教育目標 :</b> 統計的推測手法の理論を理解する		
<b>授業計画 :</b> 教科書の第6章・第7章を学ぶ. 6 Maximum likelihood methods 6.3 Maximum likelihood tests 6.4 Multiparameter case: estimation 6.5 Multiparameter case: testing 6.6 The EM algorithm 7 Sufficiency 7.1 Measures of quality of estimators 7.2 A sufficient stat		
<b>授業の進め方 :</b> セミナー形式で行う. 教科書を分担して担当者が説明し, 質疑応答を行う.		
<b>テキスト :</b> Hogg, R.V., McKean, J.W and Craig, A.T. (2012). "Introduction to Mathematical Statistics" 7th ed.		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b> 授業後など随時受けつける		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> 平素の授業での報告, 質疑応答を総合的に評価する. 試験は行わない.		
<b>その他 :</b>		
更新日付 : 2016/06/16 17:56:35		

授業科目名：現代経済学特研 I (105)		講義コード：16173011
講義題目：マクロ労働経済学（サーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場分析）		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：村尾 徹士
履修条件：後期開講の「現代経済学特研 II」を続けて履修することが望ましい。		
キーワード：サーチ・マッチングモデル，労働市場政策，実証分析		
<b>授業の概要：</b> この授業ではサーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場分析について学習する。大学院レベルの代表的な労働経済学の教科書であるCahuc, Carcillo, and Zylberberg (2014) のうち，関連するチャプターを輪読する。 前期の「現代経済学特研 I」では，サーチ・マッチングモデルの基本的なフレームワークと，その応用として技術進歩やグローバル化が賃金格差や失業に与える影響に関する理論分析を紹介した Part3 (Job creation, job destruction, and The seminar covers topics in labor market analysis using search-matching theory. The first semester focuses on basic framework of search-matching models. The second semester explores impacts of some labor market policies (i.e. employment protection, unemployment insurance, and training) on unemployment and welfare, based on search-matching framework.		
<b>全体の教育目標：</b>		
サーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場政策分析／実証研究を行うための知識を修得すること。またこの分野で研究テーマを見つけることができるようになること。		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b>		
Chapter5 : Job Search 1. What do job seekers do? 2. Basic job search theory 3. Empirical aspects of job search 4. Search frictions and wage differentials Chapter9 : Equilibrium Unemployment 1. Facts 2. The competitive model with lab		
<b>授業の進め方：</b> 授業はセミナー形式である。参加者は輪番で教科書の内容を報告し，また内容に関する議論を全員で行う。		
<b>テキスト：</b> Cahuc, Carcillo, and Zylberberg (2014): Labor Economics second edition, MIT Press.		
<b>参考書：</b> [1] Pissarides (2000): Equilibrium Unemployment Theory second edition, MIT Press. [2] 今井，工藤，佐々木，清水 (2007): 『サーチ理論 分権的取引の経済学』，東京大学出版会。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 学期末のレポートによる。レポートの内容は，(1) リサーチプロポーザル，(2) 実証研究のレプリケーション，(3) 研究テーマに関連する文献サーベイ，の中から各自選択するものとする。レポートに関する詳細は初回の授業で示す。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/29 18:46:17		

授業科目名：経済学方法論（経209）		講義コード：16173012
講義題目：経済学方法論を学ぶ		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：藤井 美男、大下 丈平、石田 修、実積 寿也
履修条件：特になし。		
キーワード：研究方法論、学術論文、理論と実践、社会性と技術性、研究不正防止		
<b>授業の概要：</b> 4人の講師によるリレー講義であり、各講師が4回づつ講義を行う。 This class is provided by 4 professors, who give a lecture by preparing their own 4 contents.		
<b>全体の教育目標：</b> 受講生に、学問の何たるかを示すとともに、学術論文の作法を具体的に教授する。		
<b>個別の教育目標：</b> 受講生に、学術論文の作法・ノウハウを解説し、また同時に研究不正防止のための心得を伝える。		
<b>授業計画：</b> 4月12日、19日、26日 1. オリエンテーション（大下ほか、全員参加） 2. 図書館スタッフによる資料探しのノウハウ解説予定（大下が引率） 3. 「マネジメント・コントロールにおける日本の貢献」を通して、経済学府で会計学、管理会計学、経営学を学ぶ意義などを解説 第2クール（担当：実積） 5月10日、17日、24日、31日 1. 経済学者が行う政策分析の視点 2. 情報通信政策の課題1：ネットワーク中立性 3. 情報通信政策の課題2：OTT産業政策 4. ウケるプレゼン		
<b>授業の進め方：</b> 4人の講師によるリレー講義。		
<b>テキスト：</b> 各講師から指示される。		
<b>参考書：</b> 各講師から指示される。		
<b>学習相談：</b> 随時に行う。各講師に対して、事前にメールでアポイントを取ってください。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 各講師の持ち点25点×4人＝100点。各講師の成績評価の方法は、それぞれの講義の中で示される予定。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/03/29 12:24:49		

授業科目名：マイクロ経済学 I (経510A)		講義コード：16173013
講義題目：		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：堀 宣昭
履修条件：特になし		
キーワード：		
授業の概要： 価格理論に相当する範囲をカバーする。 This course covers the domains known as the price theory.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
授業計画： 1. 消費者行動の理論 2. 企業行動の理論 3. 市場均衡 4. 市場の失敗 5. 独占		
授業の進め方：Lecture		
テキスト：神取道宏『マイクロ経済学の力』，日本評論社，2014		
参考書：Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, Third Edition, W W Norton & Co Inc., 1994 西村和雄『マイクロ経済学』，東洋経済新報社，1990		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：Midterm Examination + Final Examination + Reports		
その他：		
更新日付：2016/09/27 15:47:25		

授業科目名：国際会計特研 I (P10)		講義コード：16173014
講義題目：Accounting and Finance を読む		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：小津 稚加子
履修条件：会計学・経営分析に関する基本的な知識があること		
キーワード：Financial Accounting, Finance, Regulatory frameworks, Measurement systems		
<b>授業の概要：</b> Michel Jones, Accounting and Finance, Wiley, 2014 の中から、次の章を読みます。受講生の理解を深めるため、毎回、議論をします。 ◆Regulatory and Conceptual Frameworks ◆Measurement Systems		
<b>全体の教育目標：</b> テキストの著者の考えを通して、財務会計、国際会計の体系をについて理解し、知識を深め、分析力を高める		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b> 第1講：オリエンテーション 第2講以降：文献輪読 第8講：中間のまとめと議論 第15講：まとめとレポートの書き方		
<b>授業の進め方：</b> 受講生の持ち回りによる報告と議論（初回に半期の計画および報告の担当を決める）		
<b>テキスト：</b> Michel Jones, Accounting and Finance, Wiley, 2014		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 講義終了後に、アポを取ってください。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平常点、単位レポートにもとづく総合評価		
<b>その他：</b> 電子辞書を用意するとよい。 テキストの英語は、平易です。		
<b>更新日付：</b> 2016/03/30 18:46:08		

授業科目名：情報経済特研 I (経510A)		講義コード：16173015
講義題目：情報化の経済効果 (総論)		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：篠崎 彰彦
履修条件：学部時代に経済学の基礎 (マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済学) を学んでおくことが望ましい。		
キーワード：情報化投資、企業経済、国際比較、IT利活用、生産性、産業、グローバル化		
<b>授業の概要：</b> この授業は、企業行動を、情報技術革新に対する取り組みや国境を越えた事業活動の面から分析していくための総論。分業、企業、市場の概念を整理した上で、分析に必要な設備投資理論、情報とネットワークの経済理論、直接投資の理論等を理解しつつ、企業投資が経済成長や産業構造に及ぼす影響をグローバルな観点から考察していく。 This class provides comprehensive knowledge and analysis regarding the impact of information technology on the economic development and global business strategies. Intensive discussions among participants are encouraged. For this purpose key concepts of standard economics and Japanese language skills are required in the class.		
<b>全体の教育目標：</b> 情報化が進展する中での企業、産業、経済の動向をグローバルな視点で概観する。		
<b>個別の教育目標：</b> 情報化の進展で企業、産業、経済がどのように変貌しているか、過去になされた議論や研究を概観し、経済学の基本概念に沿って理解を深める。		
<b>授業計画：</b> 企業経済学、情報化投資、直接投資に関連したリーディング・リストをもとに解説 (報告) と討論を行う。その中で、情報化の経済効果を分析する際に必要となる経済学の概念を整理し、先行研究の概観を通じて、企業行動、産業組織、産業構造、地域産業への影響などを考察する。		
<b>授業の進め方：</b> 英文・和文の著書や論文を基に、講義形式と演習方式の併用により、解説 (報告) とディスカッションで理解を深めていく。		
<b>テキスト：</b> 『インフォメーション・エコノミー』NTT出版、Information Economy [UNCTAD]、Digital Dividends [World Development Report] などいくつかの書籍、論文、報告書等を予定。		
<b>参考書：</b> 初回にリーディング・リストを提示する。		
<b>学習相談：</b> 前期は、火曜日 11:00～12:00 のオフィスアワーに適宜学習相談を行う。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> ・平素の学習態度 [課題提出、報告・討論への発言・参加姿勢] (50%) ・期末の試験もしくはレポート (50%) で総合評価。 ・無断欠席や無気力な参加、他の受講生の意欲を削ぐような姿勢が続く場合、改善がみられないと単位は認められない。		
<b>その他：</b> 十分な予習・復習に基づく徹底的な議論を重視。 授業中、他の受講生に迷惑となる行為をしないこと。		
更新日付：2016/03/30 11:38:43		

授業科目名：経済システム特論（エネルギー産業史特研 I（P20）		講義コード：16173016
講義題目：エネルギー産業の経済・政治・軍事		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：三輪 宗弘
履修条件：特にありません。関心のある方はぜひ参加してください。		
キーワード：エネルギー，石油，石炭，産業政策，戦時経済		
<b>授業の概要：</b> 修士論文作成に向けて、研究テーマにつながる研究を報告する。もしくは各自の研究テーマに関係する先行研究を批判的に報告する。 In order to complete your master paper, you will present your survey and progress of your master paper. Or you will critically present related academic papers of your research.		
<b>全体の教育目標：</b> 修士論文を書き上げるために、問題意識を明確にし、問題意識に基づき、これまでの先行研究や資料をどのように読み解釈するのか、明確にする。		
<b>個別の教育目標：</b> 文章力を向上させること。そのためにはいい論文を読まなくてはならないし、日々文章を書くことを意識して論文を読まなければならない。		
<b>授業計画：</b> 各自の研究報告を行う。報告者を決定し、報告者はレジメを作成して、レジメに基づき1時間報告し、質疑応答を30分から1時間行う。 修士1年生は、最初に卒業論文の骨子を報告する。		
<b>授業の進め方：</b> 報告および輪読（論文） 投稿論文の報告		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> 参考図書： 木下是雄『理科系の作文技術』（中公文庫）		
<b>学習相談：</b> 随時受け付けます。メールで連絡ください。 munehiro.miwa.535@m.kyushu-u.ac.jp		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 報告と研究に対する取り組み方		
<b>その他：</b> 自分の関心を大切にしてください。研究は長丁場です。修士論文を書き上げることは、皆さんの今後の人生で必ず役に立つと思います。一緒に勉強しましょう。		
<b>更新日付：</b> 2016/03/26 17:49:46		

授業科目名：計算基礎 (経209)		講義コード：16173017
講義題目：		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：古川 哲也
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> データをコンピュータで処理し解析する方法論の研究や、コンピュータに計算をさせて問題を解くために必要な基礎知識を学ぶ。問題を形式化しアルゴリズムを考えるための基盤を身につけ、基本的なデータ構造とその上でのデータ操作を中心としたアルゴリズムによってコンピュータで計算するとはどういうことなのかを理解する。これらを通じて処理手順の形式的な記述と展開ができるようになることを目指す。 This course learns fundamental knowledge for research on methods to process and analyze data with computers. Main issues are basics of algorithms for formalizing problems and data structures.		
全体の教育目標：		
<b>個別の教育目標：</b> 問題やアルゴリズムの形式的な記述法を習得する。		
<b>授業計画：</b> 1. ガイダンス 2～3. 集合、写像、関係 4～5. 記号列、言語、帰納法 6～8. 数え上げ、再帰、木 9～10. スイッチング回路、証明、理論 11～12. 2項関係、束、無限 13～14. グラフ、行列、機械 15. まとめ		
授業の進め方：講義。		
テキスト：計算機科学入門 (サイエンス社)		
参考書：		
<b>学習相談：</b> 随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 (メールアドレス：furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp)		
試験／成績評価の方法等：レポート。		
その他：		
更新日付：2016/09/16 13:57:16		

授業科目名：マイクロ経済分析特研 I (経510B)		講義コード：16173018
講義題目：契約理論とオークション理論		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：三浦 功
履修条件：M2を対象とし、マイクロ経済学 I、II を履修済みであることが望ましい。		
キーワード：情報の非対称性、顕示原理、契約理論、オークション理論		
<b>授業の概要：</b> この講義では、経済主体間の情報の非対称性を前提とする経済理論である「契約理論」と「オークション理論」について学ぶ。 In this lecture, we learn "contract theory" and "auction theory" which mean economic theory that assumes the information asymmetry between economic agents.		
<b>全体の教育目標：</b> マイクロ経済学の先端理論である「契約理論」と「オークション理論」の基礎概念を理解させる。		
<b>個別の教育目標：</b> 現実の経済諸問題を「契約理論」と「オークション理論」に依拠しながら分析する方法を理解させる。		
<b>授業計画：</b> 第1回：ガイダンスおよび契約理論の基本的枠組みを説明する。 第2、第3回：シングルエージェントモデル 第4回から第9回：複数エージェントモデル 第10回から第15回：オークション理論		
<b>授業の進め方：</b> 最初の3回は、講義形式で契約理論の基礎的概念を説明する。4回目以降は、受講生に交替で報告してもらう。		
<b>テキスト：</b> 伊藤秀史『契約の経済理論』、有斐閣		
<b>参考書：</b> 三浦 功『公共契約の経済理論』、九州大学出版会 細江・三浦・堀 (訳) 『契約の経済学』、勁草書房		
<b>学習相談：</b> メールで、随時、相談に応じる。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/03/28 11:40:18		

授業科目名：経済数学特研 I (P21)		講義コード：16173019
講義題目：経済数学特研 I		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：小室 理恵
履修条件：学部の1年次における微分積分学・同演習AB，線形代数学・同演習ABの学習内容を理解していること。		
キーワード：Dynamic Programming		
<b>授業の概要：</b> 離散時間の Deterministic Dynamic Programming の理論を学ぶ。 This is the graduate level course. Students are required to present an assigned part of the textbook shown below.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 下に挙げた教科書の第3・4章を読む。		
授業の進め方：輪講形式		
テキスト：Recursive Methods in Economic Dynamics (Stokey and Lucas)		
参考書：		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：出席と発表で評価する。		
その他：		
更新日付：2016/09/15 20:48:01		

授業科目名：上級財政システム（研究室）		講義コード：16173020
講義題目：財政学入門（とくに財政社会学を中心に）		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：八木 信一
履修条件：学部レベルの財政学の知識があることが望ましい		
キーワード：財政学、財政社会学、分断社会		
<b>授業の概要：</b> 本授業ではテキストを用いて財政学の基礎知識を得ることを目的とする。とくに、社会のトータルシステムのなかで財政現象を捉える財政社会学の方法論を学び、議論していく。 The purpose of this class is to learn basic knowledge and methods about public finance using by standard textbook (written by Japanese). Especially, we would learn and discuss about the methodology of fiscal sociology which focuses on fiscal phenomena in total system of our society.		
<b>全体の教育目標：</b> 日本財政について国際比較や歴史を視野に入れながら分析および検討することができる。		
<b>個別の教育目標：</b> 財政社会学の方法論に対して批判的な検討と議論を行うことができる。		
<b>授業計画：</b> 第1回（4月12日開講予定） ガイダンス 第2回以降 テキストの文献輪読		
<b>授業の進め方：</b> テキストの予習を前提としたうえで、毎回の授業で質疑応答と関心のある内容（およびテーマ）について議論を行う。		
<b>テキスト：</b> 神野直彦（2007）『財政学 改訂版』有斐閣。 井手英策・古市将人・宮崎雅人（2016）『分断社会を終わらせる』筑摩書房。		
<b>参考書：</b> 授業中に適宜紹介していく。		
<b>学習相談：</b> 授業終了後に対応する。それ以外は、メールでアポイントをとったうえで来室すること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平常点（規定の出席回数を満たしていることを前提とした、毎回授業におけるパフォーマンスの内容）にて評価する。		
<b>その他：</b> 受講者は各自でテキストを購入しておくこと。また、受講予定者は第1回授業（4月12日開講予定）への出席を義務づける。欠席する場合は、事前にメールで連絡すること。		
更新日付：2016/03/22 11:32:35		

授業科目名：産業配置特研 I (P21)		講義コード：16173021
講義題目：知識と経済		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：山本 健兒
履修条件：後期に開講する産業配置特研IIも履修すること。また、都市経済、地域経済に関心を持っていること。		
キーワード：knowledge, economy, geography, innovation, information		
<b>授業の概要：</b> Meusburger, P., J. Glueckler and M. el Meskioui (es.) (2013) Knowkedge and the Economy. Dordrecht: Springer を読むとともに、時に応じて、参加学生による独自の研究報告とこれに基づくディスカッションを行う。		
<b>全体の教育目標：</b> 知識と経済発展との関係に関して、経済地理学の観点から考え、かつ説明できる力を身につけること。		
<b>個別の教育目標：</b> 英語で書かれた学術レベルの論文を批判的に読み、それをレポートの形で口頭報告するとともに、文章としても提示する力を身につけること。		
<b>授業計画：</b> 第1回目は授業の進め方を解説するとともに、自己紹介（特に研究テーマについて）を行うこと。 第2回以降はテキスト全13章を、順番に第1章から、1回の授業で1章ずつ読んでいく。テキストの内容は、学生が報告し、それを踏まえてディスカッションする。また、少なくとも1回、自身の研究テーマでの報告をしてもらい、これに基づくディスカッションも行う。 最終回時に、テキストに関する書評を提出してもらう。		
<b>授業の進め方：</b> 演習形式で進める。		
<b>テキスト：</b> Meusburger, P., J. Glueckler and M. el Meskioui (es.) (2013) Knowkedge and the Economy. Dordrecht: Springer。 第1回目にテキストのコピーを配布する。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時応ずるので、e-mailでアポイントメントを取ること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の学習態度と授業への出席・参加状況、及びレポートで総合的に判断する。		
<b>その他：</b> 無欠席、無遅刻、無早退が当然です。		
<b>更新日付：</b> 2016/04/12 19:23:38		

授業科目名：労働経済学特研 I (経510A)		講義コード：16173022
講義題目：労働経済の理論と実証		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：橋本 由紀
履修条件：		
キーワード：労働供給・需要，賃金，人的資本，雇用差別，労働移動		
<b>授業の概要：</b> 労働経済学の教科書および学術論文の輪読と討論を通じて，理論と実証分析手法を学ぶ。 This course will focus on labor market institution operating in imperfect labor markets. Topics include theoretical and empirical approaches to human capital and wage determination, wage income inequality, unemployment and minimum wages, working hours, unions, implicit contract theory, efficiency wage hypothesis, and active labor market policies.		
<b>全体の教育目標：</b> 学術論文の理解に必要な知識や技術を身につける		
<b>個別の教育目標：</b> 理論の理解と実証分析手法の習得		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2-15回 教科書，学術論文の輪読と討論		
<b>授業の進め方：</b> 報告と討論のゼミ形式		
<b>テキスト：</b> 大森義明 (2008) 『労働経済学』 日本評論社 Ashenfelter, O., & Card, D. (Eds.). (2010). HANDBOOK OF LABOR ECONOMICS, VOL 4A (Vol. 4). Elsevier. Cahuc, P., Carcillo S. and Zylberberg, A. (2014). Labor economics, 2nd edition, MIT press.		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 発表50%，討論への参加50%		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 23:49:28		

授業科目名：上級経営学 (P11)		講義コード：16173023
講義題目：経営学の基礎		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：大坪 稔
履修条件：経営学に関心のあること		
キーワード：日本企業、経営学、研究方法、研究テーマ		
<b>授業の概要：</b> 本講義は、大学院で経営学を初めて学ぶ学生に対し、経営学の分野における基礎的知識、主要な研究テーマ、研究方法について講義を行う。経営学に関連のある書籍をあらかじめ指定し、これを順番に報告してもらい、そのうえで解説を行う、という形式で、講義を進める。 Graduate students will learn fundamental ideas and methodologies relating to corporate management in this course. In this course, some students have a presentation of chapters of text book and others must ask questions.		
<b>全体の教育目標：</b> 経営学分野における基礎的知識の習得、主要な研究テーマや方法論について理解すること		
<b>個別の教育目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本企業の経営について理解すること</li> <li>・ 経営学における主要な研究テーマについて学習すること</li> </ul>		
<b>授業計画：</b> 第一回目の講義において、書籍の紹介、報告の順番を定め、第二回目以降において学生に順番に報告をしてもらう		
<b>授業の進め方：</b> 第一回目の講義において、書籍の紹介、報告の順番を定め、第二回目以降において学生に順番に報告をしてもらう		
<b>テキスト：</b> 入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版、2012年。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 講義終了後		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 講義への出席と報告、ディスカッションにおける発言による成績評価		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/24 10:32:13		

授業科目名：現代金融特研 I (経510B)		講義コード：16173024
講義題目：金融論の研究手法と近年の研究動向		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：木成 勇介
履修条件：学部レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学、金融論についてある程度の知識があることが望ましい。		
キーワード：金融機関、コーポレートファイナンス、コーポレートガバナンス、資産価格パズル、ファンダメンタルズ、合理的パズル、マーケットマイクロストラクチャー		
<b>授業の概要：</b> 近年の金融論研究をサーベイしている教科書を用いて、銀行論、コーポレートファイナンス、マーケットマイクロストラクチャーなど、極めて多岐にわたる金融論の全体像および各分野の 近年の動向を把握することを目的とする。また、各分野における最重要論文や最新の論文も 併せて学習することで金融論研究の基礎を身につける。 The course will offer the latest trend of finance and monetary economics such as banking, corporate finance, and market microstructure. Also we will deal with seminal papers to understand the main theme and the method of analysis in the fields.		
<b>全体の教育目標：</b> 標準的な金融論の研究手法を身につけると同時に、近年の金融論研究の動向を把握する。		
<b>個別の教育目標：</b> 金融論研究のサーベイを行うことで近年の研究動向を把握し、自身の研究テーマ・研究手法を具体的にイメージできるようになること。		
<b>授業計画：</b> 第1回目：オリエンテーション (教科書・文献紹介、報告割り当て) 第2回目以降：参加者による報告と議論		
<b>授業の進め方：</b> あらかじめ定められた受講生が報告し、その内容に基づいて全員で議論する。解説が必要な箇所は随時補足・説明する。但し、受講生が多い場合は講義形式とする。また、参加者自身が各々の研究テーマに関連する論文を探し、報告することも可能である。		
<b>テキスト：</b> 筒井義郎[編](2000)「金融分析の最先端」東洋経済新報社		
<b>参考書：</b> 講義中に適宜紹介する。		
<b>学習相談：</b> 質問があれば随時受け付ける。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席、報告、議論への参加、期末に課すレポートを総合して評価する。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/03/07 14:24:50		

授業科目名 : アジア多国籍企業特研 (経510B)		講義コード : 16173025															
講義題目 :		授業科目区分 :															
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : ラムステッター															
履修条件 :																	
キーワード : Multinational corporations, Asia																	
<b>授業の概要 :</b> This class will examine the activities of multinational corporations in a semi-intensive format (15 lectures over 8 class days). The detailed schedule follows.																	
<b>全体の教育目標 :</b> To increase understanding of multinational corporations' activities in Asia and empirical, economic analyses of those activities.																	
<b>個別の教育目標 :</b> To increase understanding of academic papers and how to write them.																	
<b>授業計画 :</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Date</th> <th>Class</th> <th>Activity</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">General Principles</td> </tr> <tr> <td>4/13</td> <td>1</td> <td>Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)</td> </tr> <tr> <td>4/20</td> <td>2</td> <td>a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5</td> </tr> <tr> <td>4/20</td> <td>3</td> <td>a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave</td> </tr> </tbody> </table>			Date	Class	Activity	General Principles			4/13	1	Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)	4/20	2	a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5	4/20	3	a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave
Date	Class	Activity															
General Principles																	
4/13	1	Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)															
4/20	2	a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5															
4/20	3	a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave															
<b>授業の進め方 :</b>																	
<b>テキスト :</b> 1a, 2a-2c, 3a-3c, 5a: Caves, Richard E. (2007), <i>Multinational Enterprise and Economic Analysis</i> , third edition. Cambridge, UK: Cambridge University Press. 1b: Carr, David L., James R. Markusen, and Keith E. Maskus (2001), "Estimating the Knowle																	
<b>参考書 :</b> Please refer to the "references" or "bibliography" sections of the assigned readings.																	
<b>学習相談 :</b>																	
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Paper (about 10 A4 pages)=50% (due 7/29); 50 question true/false test=20% (7/13); Attendance, paper outlines, and presentations=30%																	
<b>その他 :</b>																	
<b>更新日付 :</b> 2016/04/13 15:07:45																	

授業科目名：マクロ経済学 (経209)		講義コード：16173026
講義題目：マクロ経済学		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：村尾 徹士
履修条件：学部レベルのミクロ経済学，マクロ経済学，経済数学の内容を十分に理解していること．これらに不安のある者は，適宜復習をしながら履修を進めることが求められる．		
キーワード：動学的一般均衡；経済成長		
<b>授業の概要：</b> マクロ経済学（動学的一般均衡モデル）に関する大学院初級レベルのコースである．講義の前半は動学的一般均衡モデルを解くために必要な数学的準備に充て，その後はソローモデル，ラムゼイモデル，世代重複モデル，そして内生的成長モデルを解説する． マクロ経済学において発展してきた動学的モデリング・解析の枠組みは，近年になって経済学の他の様々な分野に応用され成果を上げるようになってきた．このことにも配慮し，この講義ではマクロ経済学に関するトピックを網羅的に紹介することよりも，動学的モデリング・解析手法の修得により大 This course introduces basic modeling framework for modern Macroeconomics, intended first year graduate students. The course firstly covers techniques for dynamic optimization, followed by topics such as Solow-Swan growth model, Ramsey-Cass-Coopmans model, overlapping generations model, and endogenous growth models.		
<b>全体の教育目標：</b> 基本的な動学モデリング・解析の手法を修得すること．		
<b>個別の教育目標：</b> 動学一般均衡モデルに関するより上級のテキストや (Ljungqvist and Sargent ; Acemoglu) ，本講義では扱わない景気循環理論・ニューケインジアン理論に関するテキスト (Walsh) を独力で読み進められるようになること．		
<b>授業計画：</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学準備</li> <li>2. ソローモデル</li> <li>3. ラムゼイモデル</li> <li>4. 新古典派経済成長モデルの実証的応用</li> <li>5. 世代重複モデル</li> <li>6. 内生的成長モデル(1) Quality Ladder モデル</li> <li>7. 内生的成長モデル(2) Variety Expansion モデル</li> <li>8. 内生的成長モデル(3) Lab Equipment モデル</li> </ol>		
<b>授業の進め方：</b> パワーポイントおよび板書を用いた講義形式で行う．講義資料は毎回の授業開始前に教室にて配布する．電子メールや Web 学習システムを通じた講義資料の配布は行わないので，やむをえず授業を欠席した者は教員から直接受け取ること．また講義内容に関する問題演習を授業中に行う．		
<b>テキスト：</b> 概ね以下のテキストの内容を扱う． [1] 中田真佐男 (2011)：『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』，日本評論社． [2] Barro and Sala-i-Martin (2004)：Economic Growth second edition, MIT Press (邦訳：大住圭介訳，『内生的経済成長理論』，九州大学出版会)． [3] David Romer (2011)：Advanced Macroeconomics, McGraw-Hill.		
<b>参考書：</b> 本講義では学部レベルの経済数学については既知として授業を進めるが，不安のある者は以下のテキストで復習することをすすめる． チャン，ウェインライト (2011) 『現代経済学の数学基礎 (上) ， (下) 』，シーエーピー出版．		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 学期末試験とレポートによる．詳細は初回の授業にて示す．		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/29 18:54:23		

授業科目名：数理計画特研 I (経510A)		講義コード：16173027
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：小野 廣隆
履修条件：数理計画の基礎を理解していること。		
キーワード：数理計画, 最適化, オペレーションズ・リサーチ		
<b>授業の概要：</b> 以下のテーマに関する論文あるいは洋書を輪講し、討論する。 組合せ最適化、アルゴリズム論的ゲーム理論 Reading papers/books about the following topics and discuss about them: Operations Research, algorithmic game theory.		
<b>全体の教育目標：</b> 最適化手法の原理, その正当性, 適用の範囲などについて、特に「計算」の立場から理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 各テーマにおける「問題」「モデル」「解」、そして「解法」を理解した上で、それに対する計算容易性、計算困難性を理解する。		
<b>授業計画：</b> 最新の研究論文を読み、「最適化」の現状と研究動向を理解する。 1. ガイダンス 2. ~15. 報告と討論		
<b>授業の進め方：</b> 輪講形式		
<b>テキスト：</b> 第1回目に決定する。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 普段の議論への貢献, また発表を評価の対象とする。		
<b>その他：</b> 昨年度は"Network, Crowds, Markets" <a href="https://www.cs.cornell.edu/home/kleinber/networks-book/">https://www.cs.cornell.edu/home/kleinber/networks-book/</a> を読みました。 初回は必ず出席のこと。出席できない場合は別途メール hirotaka@econ.kyushu-u.ac.jp にて連絡すること。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 13:18:07		

授業科目名：上級開発経済（研究室）		講義コード：16173028
講義題目：経済開発と格差 Development Economics		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：水野 敦子
履修条件：経済学部の「開発経済」を履修済であること。		
キーワード：開発経済		
<b>授業の概要：</b> 開発経済と格差について専門的に学ぶ。 This class is an introductory course of the graduate level development economics.		
<b>全体の教育目標：</b> 開発経済と格差について理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 開発経済と格差について学び、考察を深める。		
<b>授業計画：</b> 経済発展と格差に関するテキストを輪読する。		
<b>授業の進め方：</b> 毎回担当者を決めてテキストの輪読を行う。		
<b>テキスト：</b> A. デイトン（著）、松本裕（訳）『大脱出 健康、お金、格差の起源』みすず書房、2014年（原著：Angus Deaton, "The Great Escape: Health, Wealth and the Origins of Inequality" Princeton University Press, 2013）		
<b>参考書：</b> 授業中に指示する。		
<b>学習相談：</b> 授業の前後に対応する。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 発表（プレゼンテーション）、議論への貢献度、出席状況、および学期末に作成する1万字の小論文に基づいて評価する。		
<b>その他：</b> 議論を深めるために、授業外の学習は必須である。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 14:42:57		

授業科目名：経済システム特論（経営管理特研I）（P10）		講義コード：16173029
講義題目：Macro organizational behavior		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：関 延媛
履修条件：		
キーワード：Interactions between firms and environments, Organization management theories, Empirical research		
<b>授業の概要：</b> Macro organizational behavior is one of the academic field in management studies, which is aimed at explaining causal relations regarding organizational actions, performance, and survival with its focus on interactions between organizations and their external environments. In this course, students will learn fundamental theories which are frequently used in the research on macro organizational behavior. For this, students will review academic papers. Major objectives of these works are to understand what are the major concerns of macro organizational behaviors and how to find research questions, develop main arguments (hypotheses), and develop methods of this research area, and to critically and constructively assess academic papers based on this field. As a final test, this class will require students to make a short research proposal based on ideas that they learn in this class and state research questions, purposes, main arguments (hypotheses), methods and expected implications.		
<b>全体の教育目標：</b> To discuss theoretical approaches frequently used in the field of research on macro organizational behavior.		
<b>個別の教育目標：</b> 1. To understand research on macro organizational behavior 2. To understand how to find research questions and develop main arguments (hypotheses) and implications 3. To critically and constructively assess empirical research papers		
<b>授業計画：</b> Details of reading assignments will be announced later. # 1. Orientation # 2. Introduction to research of social science, Tips for finding reference papers # 3. Elements of Research Design # 4. Reading empirical papers # 5-7. Reading Seminar 1 - Uppe		
<b>授業の進め方：</b> This is a seminar, in which we review and discuss book chapters and academic papers. (1) In the book review session, students are expected to read assigned chapters of a textbook and submit a summary. We will have one presenter per one chapter. Each pre		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> (1) Book chapter: Bhattacharjee, Anol. (2012) Social Science Research: Principles, Methods, and Practice, USF. (2) Paper: Academic papers published in leading management journals like Annals of Academy of Management, Administrative Science Quarterly, Aca		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> Assignments (40%) + Presentations (30%) + Participation when others present (30%)		
<b>その他：</b> Both of Japanese and English are allowed in review notes, presentations and discussions. Please come to the first class and make sure if you will take this course before the second class. We will finalize the presentation schedule in the second class.		
<b>更新日付：</b> 2016/09/30 17:16:34		



授業科目名：上級国際金融（経510A）		講義コード：16173031
講義題目：グローバル化のもとでの現代世界経済—国際金融論からのアプローチ		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：岩田 健治
履修条件：マクロ経済学および国際経済学(または国際金融)を学部で習得済みであることが望ましい。		
キーワード：国際金融、外国為替相場、国際通貨、国際通貨制度、世界金融経済危機、ユーロ危機		
<b>授業の概要：</b> グローバル化が進む現代世界経済を理解するには、国際金融に関する的確な理解が不可欠である。ここでは国際金融・通貨論の中上級レベルのテキストもしくは国際金融を扱った古典的著作について学ぶ。本講義の受講により、国際金融の歴史的展開やグローバル化時代の国際金融の諸問題について、理論・実証双方の視点から高度な理解に到達することができる。 In order to understand contemporary globalized world economy, clear understanding on international finance is indispensable. In this lecture, students are to read textbook on intermediate or advanced level international money and finance, or classics in Economics. Through this lecture, students are expected to reach clear understandings, both theoretically and practically, on historical developments of international finance and issues on international finance in the globalized world economy.		
<b>全体の教育目標：</b> 国際金融および国際通貨システムの理論と現実に関する高度な理解		
<b>個別の教育目標：</b> 金融グローバル化、グローバルインバランス、金融危機、通貨危機、通貨統合、為替相場制度、国際通貨制度などに関する高度な理解		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2～14回 テキストの章に沿って進める 第15回 全体のまとめ		
<b>授業の進め方：</b> 受講人数に応じて最も学習効果が上がリ、適切な成績評価ができるよう、ゼミ形式と講義形式をフレキシブルに組み合わせて進める。		
<b>テキスト：</b> 第1回目のガイダンスの際に、受講者と相談の上で決定する。 参考：これまでの上級国際金融では、ポール・デ・グラウエ著、田中素香・山口昌樹共訳(2011)『通貨同盟の経済学—ユーロの理論と現状分析』勁草書房やポール・デ・グラウエ著、寿崎雅夫・平島真一監訳(2001)『国際通貨—外国為替レートと為替制度の理論と実際』東洋経済新報社、トマ・ピケティ著、山形浩生・守岡桜・森本正史訳(2014)『21世紀の資本』みすず書房等を用いてきた。		
<b>参考書：</b> 必要に応じて授業の中で指定する。		
<b>学習相談：</b> 授業で不明な点は、オフィスアワーにて対応する。 iwata@econ.kyushu-u.ac.jp (*を@に置き換え)にメールをして、事前にアポイントをとること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績(100%)による。ただし受講生の理解度に不足が感じられる場合、小テスト(50%)を実施し、平素の成績(50%)と併せて評価する。		
<b>その他：</b> * 日本語での報告と議論を基本とするが、英語での報告や議論も認める。		
更新日付：2016/09/19 18:01:36		

授業科目名：上級貿易投資分析 (P20)		講義コード：16173032
講義題目：多国籍企業と世界経済		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：石田 修
履修条件：		
キーワード：多国籍企業 世界経済、日本経済		
<b>授業の概要：</b> まず、テキストを読破し、直接投資活動を概観し、世界経済における多国籍企業活動の諸問題を考察します。その後は、各自の興味ある論文を報告してもらいます。 During the first half of the seminar, we read through the textbook and argue lots of points raised by the author. Alongside the reading and discussing, we study many aspects of multinational corporations' activity. On the second half of the seminar, you have to select a interesting academic paper and report the content. We discuss the contribution of the paper.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
授業計画：		
<b>授業の進め方：</b> テキストの決められた箇所の内容を報告し、問題点を討論します。 後半の、各自の報告は、論文（英語、日本語どちらも可）を選び、それを報告してもらいます。		
テキスト：清田耕造『拡大する直接投資と日本企業』		
参考書：		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：平常点		
その他：		
更新日付：2016/09/14 11:34:48		

授業科目名：日本経営論特研 I (P11)		講義コード：16173033
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：内田 大輔
履修条件：経営領域における実証研究に関心があること。 To have interests in empirical research in organization and management field.		
キーワード：経営戦略論，経営組織論，実証研究		
<b>授業の概要：</b> 本講義の目的は、日本企業が現在直面する諸課題に関する研究のレビューおよびディスカッションを通じて、経営領域において実証研究を行う力を養う場を提供することにある。具体的には、経営領域で用いられる主要な理論を概観したうえで、新興企業、コーポレート・ガバナンス、事業再編、という3つの経営現象に注目している実証研究を取り上げ、それぞれの現象がどのような理論に依拠して説明なされているかを検討していく。また、本講義では、理論を理解し、それを現象に適用することに加え、経営現象を実証的に分析する際の作法を身に付けることも The purpose of this course is to to develop abilities to accomplish empirical research in the field of organization and management . First, we overview main theories in organization and management field. Then, we read articles that investigates phenomena, such as emerging companies, corporate governance, and corporate restructuring. In the class, we discuss how to use theories to explain each phenomenon and how to empirically examine each phenomenon.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 1. ガイダンス 2. 実証研究の基礎 3. 経営理論概略1 4. 経営理論概略2 5. 新興企業1：組織の設立 6. 新興企業2：正当性の獲得 7. 新興企業3：新規上場 8. コーポレート・ガバナンス1：株主の役割 9. コーポレート・ガバナンス2：取締役会の役割 10. コーポレート・ガバナンス3：取締役の選任 11. コーポレート・ガバナンス4：ガバナンス慣行の普及 12. 事業再編1：M&A 13. 事業再編2：人員削減 14. 事業再編3：事業売却 15. 最終発表		
授業の進め方：		
テキスト：毎回の講義において、読むべき文献を指定します。		
参考書：		
学習相談：オフィスアワー：随時。事前にメール（アドレス：duchida@econ.kyushu-u.ac.jp）でご連絡ください。		
試験／成績評価の方法等：		知識・理解 汎用的技能
態度・志向性		
レポート/ Report	◎ ○ ○ ○ ○	
発表（プレゼン・スピーチ等）/ Presentation	◎ ○ ○ ○ ○	
授業への貢献度/ In-class contribution	◎ ○ ○ ○ ○	
出席 / Attendance	◎ ○ ○ ○ ○	
<b>その他：</b> 毎回の講義において、課題（海外学術雑誌に掲載されている実証研究論文2本程度）を提示しますので、該当論文を読み、レジюмеを作成する必要があります。授業では、事前の課題への準備で見つけた疑問点や論点を中心に議論を進めていきます。		
更新日付：2016/04/12 10:44:51		

授業科目名：経済システム特論（産業政策特研Ⅰ）（研究室）		講義コード：16173034
講義題目：デジタル経済の分析		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：実積 寿也
履修条件：特になし		
キーワード：ネットワーク効果、産業組織、競争均衡		
<b>授業の概要：</b> テキストを批判的に読み進めながら、デジタル経済の諸現象について経済学的に分析する。 Read the textbook and discuss the related topics		
<b>全体の教育目標：</b> ミクロ経済学の知識をもちいて現実の企業行動を分析する。		
<b>個別の教育目標：</b> デジタル経済を分析するための基本的な視点を獲得する。		
<b>授業計画：</b> 発表担当者を指名し、テキストを読み進める。 具体的な授業計画等については、第1回目の講義で学生との話し合いに基づいて決定する。		
<b>授業の進め方：</b> 受講者数に依存するものの、基本的には演習形式で行う		
<b>テキスト：</b> Spulber, D.F., and Yoo, C.S. (2009) Networks in Telecommunications: Economics and Law, Cambridge University Press.		
<b>参考書：</b> 適宜指定する。		
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは金曜日12:45~14:00としているが、事前に教員にアポイントメントをとった上で訪問すること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> レポートと授業参加等を総合的に評価する。		
<b>その他：</b> 講義では英語を多用するため、一定の英会話能力が必要である。		
<b>更新日付：</b> 2016/03/05 00:09:07		

授業科目名：比較経済制度特研 I (経510B)		講義コード：16173035
講義題目：「中国型」資本主義・再訪 The "Chinese Style" of Capitalism Revisited		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：磯谷 明德
履修条件：特になし。		
キーワード：中国型資本主義、中所得国の罟、体制移行の罟、都市化、産業構造の高度化、イノベーション、民営化、格差、社会的公正		
<b>授業の概要：</b> 前期では、中国型資本主義の再考察を試みる最新刊の著作に基づいて、現代中国経済が克服しなかなければならない課題について考察する。「中所得国の罟」と「体制移行の罟」の2つの罟に注目する。これら2つの罟を中国経済がどのように超えることができるかのかについて議論する。 Through reading the just-published book which tries to reconsider the Chinese style of capitalism, this class aims at investigating the problems which contemporary Chinese economy should overcome. Especially, focusing on both traps of "middle-income countries" and "the regime transition", this class deepens understandings of how Chinese economy can go beyond above two traps.		
<b>全体の教育目標：</b> 本年度の大学院ゼミでのテーマは、昨年度のテーマを継続して「東アジアとEU」である。ある特定の国の経済システムをより深く分析するだけでなく、グローバル経済の中での各国の経済システムの収斂と多様性というダイナミズムという視点から、対象とする経済システムの独自性・特異性やその将来についての理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 事前の準備と予習を必ず行うこと。 また、報告に際しては、関連する文献の収集とそれへの言及が求められるので、その準備をすること。		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンスと日程決定 第2回 中国経済と「二重の罟」 第3回 戸籍制度改革と農民工 第4回 農村都市化と集団経済の変容 第5回 地方政府間競争と財政 第6回 産業高度化と産業政策 第7回 技術開発と R&D 第8回 民営化、市場化と制度化 第9回 所有制と格差問題 第10回 国有企業と市場競争の質 第11回 「国進民退」と企業ダイナミクス 第12回 中国企業の対米投資 第13回 都市部における所得格差と主観的幸福度 第14回 農民の所得格差拡大 第15回 どこへ向かう中国		
<b>授業の進め方：</b> 受講者による分担者と討論を中心とした演習形式。		
<b>テキスト：</b> ・ 加藤弘之・梶谷懐編著『二重の罟を超えて進む中国型資本主義：「曖昧な制度」の実証分析』ミネルヴァ書房、2016年。		
<b>参考書：</b> ・ 加藤弘之『中国経済学入門—「曖昧な制度」はいかに機能しているか—』名古屋大学出版会、2016年。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績（出席と報告内容）とターム・ペーパーの提出による評価。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/04/14 09:27:31		

授業科目名：マクロ経済分析特研 I (P10)		講義コード：16173036
講義題目：経済成長理論		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：池下 研一郎
履修条件：履修条件は特にありませんが、学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学に関する知識をすでに身に着けていることが望ましいです。		
キーワード：経済成長、マクロ経済学、新古典派成長モデル、イノベーション、成長戦略		
<b>授業の概要：</b> 本演習では、現代的な経済成長理論について学び、一国の経済成長率を高めるような政策について深く考察します。その過程で基礎的なミクロ経済学、マクロ経済学、および統計的手法についても学びます。最終的には経済成長理論を十分に身に着け、現実の問題解決に結び付けていくことを目的とします。 In this seminar, you will study modern theory of economic growth and consider the design of growth policy. Moreover, you will be able to study basic microeconomics, macroeconomics, and statistical tools in order to understand the process of economic growth.		
<b>全体の教育目標：</b> 本講義では経済成長理論の学習を通じて、修士論文を書く際に必要となるマクロ経済分析の基礎的な知識や技能を修得することを目標とします。		
<b>個別の教育目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な経済成長理論に関する議論を理解し、説明することができる。</li> <li>・経済成長理論の考え方をを用いて現実経済に関する問題を発見し、諸問題を分析できる。</li> <li>・経済成長理論に関する議論や自らの問題意識、分析結果等を効果的にプレゼンテーションできる。</li> </ul>		
<b>授業計画：</b> 本講義では、主に新古典派成長モデルと政策分析の基礎となる内生的成長モデルについて学びます。具体的には以下のような内容を予定しています。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Why Study Economic Growth?</li> <li>3. Neoclassical Growth Theory</li> <li>4. The AK Model</li> <li>5. Product Variery</li> <li>6. The Schumpeterian Model</li> <li>7. Capital, Innovation, and Growth Ac</li> </ol>		
<b>授業の進め方：</b> 本講義では、主に教科書を軸にゼミナール形式で授業を進めていきます。また講義の間に複数回の課題を出します。		
<b>テキスト：</b> Aghion, P., and P. Howitt The Economics of Growth, MIT Press, 2009.		
<b>参考書：</b> 第1回目のガイダンスにて紹介します。		
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは毎週水曜日の10:00~12:30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします（事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです）。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 課題レポート、発表、授業への貢献度、出席を用いて評価を行います。 レポート：20% 発表（プレゼン・スピーチ等）：40% 授業への貢献度：20% 出席：20%		
<b>その他：</b> 経済学を理解するためには、十分な時間をかけて綿密に議論を追っていく必要があります。そのための手間を惜しまないこと。		
<b>更新日付：</b> 2016/04/12 11:49:22		

授業科目名：経済システム特論（産業技術特研Ⅰ）（研究室）		講義コード：16173037
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：久野 国夫
履修条件：		
キーワード：オートメーション		
<b>授業の概要：</b> テキストを輪読する。 We read Nichola Car's The Glass Gage: Automation and Us (W.W.Norton, 2014) in a Japanese version.		
<b>全体の教育目標：</b> 技術と社会・経済についての問題意識をはぐくむ。		
<b>個別の教育目標：</b> 今日の先端技術の問題について理解する。		
<b>授業計画：</b> 1. ガイダンス：テキスト報告者の各章割り当てをきめる。 2. ～15. テキストの輪読、討論		
<b>授業の進め方：</b>		
<b>テキスト：</b> ニコラス・G・カー『オートメーションバカ：先端技術がわたしたちにしていること』青土社、2015年		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席（40％）、報告（30％）、討論への参加状況（30％）		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/10/01 19:02:12		

授業科目名：情報解析特研 I (経510B)		講義コード：16173038
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：古川 哲也
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 大量のデータをコンピュータで処理し解析するためには、データを適切に構成しデータベースとして利用できるようにする必要がある。様々なデータをデータベース化するために考慮すべき事項を理解し、データモデルの選択とデータベースの構築および利用を行うための知識を得る。 Data must be organized properly and be used as databases to process and analyze data with computers. This course learns data models and how to design and use databases.		
<b>全体の教育目標：</b> データモデル論を理解する。		
<b>個別の教育目標：</b> データベースの設計と利用ができるようになる。		
<b>授業計画：</b> リレーショナルモデルを中心としたデータベースにおけるデータの表現と種々の演算によるデータの加工、多次元データベースで代表される数値データのデータモデル、OLAP やデータマイニング等のデータ分析手法について解説する。 1. ガイダンス、データベースの基礎 2～4. データのモデル化とデータ操作 5～7. リレーショナルデータベース 8～12. データベースの設計理論 13～14. データの分析手法 15. まとめ		
<b>授業の進め方：</b> 講義と討論。		
<b>テキスト：</b> 随時紹介する。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 (メールアドレス：furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp)		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績 50%、レポート 50%。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/16 14:01:19		

授業科目名：世界経済特研 I (研究室)		講義コード：16173039
講義題目：世界経済の構造変化と東アジア経済		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：清水 一史
履修条件：学部の国際経済学や世界経済の科目、経済理論の科目を履修済みのこと		
キーワード：世界経済、国際経済、経済統合、FTA、AEC、経済発展、工業化、国民国家		
<b>授業の概要：</b> グローバル化し構造変化を続ける現代世界経済を、総合的に分析する。すなわち、第二次世界大戦後の国際経済体制や国際貿易・投資の進展、地域経済統合の展開など世界経済の構造変化を分析する。 東アジア地域やアジア・太平洋地域における経済の構造変化にも、解説を加えたい。 テキストは、出席者と相談の上、決定する。アジア政経学会、日本国際経済学会、国際シンポジウム等の最新の報告論文などを教材とすることも検討している。 履修に当たっては、学部レベルの国際経済学や世界経済の知識を備えていること、単位を取得していることを The Seminar about the Structural Change of the World Economy and East Asian Economy.		
<b>全体の教育目標：</b> 世界経済の構造変化の理解		
<b>個別の教育目標：</b> 現代世界経済の構造変化の理解、東アジアの経済構造の変化の理解		
<b>授業計画：</b> 初回はガイダンスを行う。2回目以降については、参加院生と相談の上、決定する		
<b>授業の進め方：</b> 院生の報告をもとに教官が説明を加える。 毎回、全員で議論することとする。 各自毎回必ず発言し、議論に参加することを求める。		
<b>テキスト：</b> 初回の授業で参加院生と相談の上、決定する。		
<b>参考書：参考図書：</b> 石川幸一・朽木昭文・清水一史編『現代ASEAN経済論』文真堂、2015年。 石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体と日本』文真堂、2013年。 石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体』JETRO、2009年。 清水一史『ASEAN域内経済協力の政治経済学』ミネルヴァ書房、1998年。 アジア政経学会編『現代アジア研究：越境』慶応義塾大学出版会、2008年。 『東アジア近現代通史：第10巻』岩波書店、2011年。 佐々木隆生『国際公共財の政治経済学』岩波		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席と報告を含めた平素の成績 (90%)、レポート (10%)。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/24 19:39:24		

授業科目名：企業経済分析特研 I (経510A)		講義コード：16173040
講義題目：Research on Corporate Finance and Governance		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：内田 交謹
履修条件：To have strong interests in corporate finance and governance research. This course is designed for students who have basic knowledge on corporate finance. I would not suggest M1 non-finance students to take this course.		
キーワード：Corporate governance, Corporate board, Mergers and acquisitions, Cash holdings, Executive compensation		
<b>授業の概要：</b> 本講義では、コーポレートファイナンス・ガバナンス分野における実証論文の読み方をレクチャーした上で、取締役会、M&A、現金保有、経営者報酬等に関する著名な論文について議論し、当該分野の研究力を養成する。This course instructs how to read empirical papers on corporate finance and governance, and then discusses well-known papers on corporate boards, M&A, cash holdings, executive compensation, and so on. The ultimate goal of this course is to improve your research skills.		
<b>全体の教育目標：</b> To know well-known ideas, theories, methodologies, and findings in corporate finance and governance research.		
<b>個別の教育目標：</b> To be able to introduce ideas, theories, methodologies, and findings in corporate finance and governance to your own research.		
<b>授業計画：</b> 1. Introduction and basics of corporate governance 2. How to read empirical papers 3. Read an empirical paper on board structure (1) 4. Read an empirical paper on board structure (2) 5. Read an empirical paper on M&A (1) 6. Read an empirical paper on		
<b>授業の進め方：</b> I would upload PPT in advance which includes questions. I would explain important issues and students are asked to respond to the questions. Then, we will further discuss.		
テキスト：		
参考書：		
学習相談：Appointment by e-mail		
試験／成績評価の方法等：Discussions in the classroom Assignments		
その他：		
更新日付：2016/04/12 08:43:56		

授業科目名：日本経済史特研Ⅰ（研究室）		講義コード：16173041
講義題目：大学院生向け古文書演習		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：鷺崎 俊太郎
履修条件：「経済史Ⅰ」（後期）を受講し、学部レベルの日本経済史に関する知識を有していること。未習熟の大学院生には、学部の講義「日本経済史」（前期）の受講を義務付ける。		
キーワード：日本経済史・日本経営史		
<b>授業の概要：</b> 大学院生向けの古文書演習を実践するとともに、月1回のペースで修士・博士課程大学院の研究報告会を行う。The purpose of this class is to read old documents written in the Tokugawa Period (1603-1867) and understand the economic and management system at that time. Students must have the knowledge of Japanese history, especially pre-modern Japanese history, and buy a dictionary about simplified Japanese characters.		
<b>全体の教育目標：</b> 17～20世紀のアジア経済、および日本経済・経営について理解する。 研究者として、古文書（くずし字）を解読できるレベルに到達する。		
<b>個別の教育目標：</b> 日本経済史・日本経営史、およびアジア経済史に関する最新の研究動向を探求する。 白木屋文書の書簡を解読できるようにする。		
<b>授業計画：</b> 第1回 オリエンテーション 第2回～15回 古文書演習：くずし字の解読 うち4回分は、修士・博士課程大学院生による研究報告会。		
<b>授業の進め方：</b> 演習形式。古文書演習は、予習を前提とする。 報告者は、毎回レジュメを作成し、40～50分ほど内容に対する報告を行い、論点を明示する。 その後、全体での討論を行う。		
<b>テキスト：</b> ・油井宏子『古文書はこんなに面白い』柏書房、2005年。 ・児玉幸多編『くずし字解読辞典』東京堂出版（普及版新装）、1993年。 ・児玉幸多編『くずし字用例辞典』東京堂出版（普及版新装）、1993年。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平常点による評価。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/10/01 09:41:53		

授業科目名：企業会計特研 I (経510A)		講義コード：16173042
講義題目：財務会計の理論と実証		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：大石 桂一
履修条件：		
キーワード：財務会計、理論研究、実証研究		
<b>授業の概要：</b> 前半部分では会計の基礎概念や理論を学び、現代の会計問題を理解する。その上で後半部分では、最近の研究動向を概観することで、問題発見・仮説構築・検証の能力を涵養する。 This course consists of two parts. The purpose of the first part is to learn the basic concepts and theories of accounting, and to understand the contemporary accounting issues. The second part will first provide an overview of the recent research trends, and cultivate the ability to discover problems and develop hypothesis by reading seminal papers.		
<b>全体の教育目標：</b> 財務会計の基礎理論を理解し、問題発見・仮説構築・検証の力を養う。		
<b>個別の教育目標：</b> 計算構造、基礎概念、および会計基準に関する知識を習得した上で、研究に必要な力を身につける。		
<b>授業計画：</b> 1. イントロダクション 2. 利潤、所得と会計利益 3. 資本維持 4. 実現概念 5. 対応原則 6. 費用の期間配分 7. 会計規制 8. Event Study と Relevance Study 9. 会計情報と企業のファンダメンタルズ 10. 会計行動のインセンティブ 11. 会計発生高と利益マネジメント 12. 実証研究の動向 13. 理論研究の動向 14. 歴史研究の動向 15. まとめ		
<b>授業の進め方：</b> 報告・討論のゼミ形式で行う。		
<b>テキスト：</b> 大日方隆『アドバンスト財務会計（第2版）』中央経済社、2013年。		
<b>参考書：</b> 適宜指示する。		
<b>学習相談：</b> 随時相談に応じる。メールにてアポイントを取ること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績による。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 17:24:57		

授業科目名：計量分析 (経209)		講義コード：16173043
講義題目：大学院レベルの計量経済学		授業科目区分：基本科目
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：宮崎 毅
履修条件：学部上級レベルの統計学、計量経済学の知識があることが望ましい。また、基本的な線形代数、確率統計に関する知識を前提とする。		
キーワード：最小2乗法、操作変数法、最尤法、質的変数モデル、パネル分析		
<b>授業の概要：</b> 計量経済学に必要な行列や確率統計を学び、その後計量経済理論を学習する。最初に、線形代数、多変量確率・分布理論、大標本理論など、大学院レベルの計量経済学の学習に必要な行列と確率統計を簡単に学習する。その後、最小2乗法 (OLS)、多重共線性、線形制約とF検定、ダミー変数、最小2乗法の一致性と漸近正規性など、OLSに関連する内容を扱う。実証分析で重要となっている内生性と操作変数法を学習したのち、非線形推定と最尤法、質的変数モデル、パネル分析を学習する。時間が許す範囲で、コンピューターを使った演習も行いたい。 Students learn basic mathematics and statistics necessary to study econometrics and, then, econometric theory. To begin with, we learn and review linear algebra, (multivariate) probability and statistics and large-sample distribution theory. Then, we study graduate-level econometrics: for example, ordinary least square (OLS), multicollinearity, linear restrictions and F test, dummy variables and consistency and asymptotic normality of the OLS. This lecture deals with endogeneity and instrumental variable estimation, which are getting important in empirical analysis of every economics field, nonlinear regression, and binary choice model as well.		
<b>全体の教育目標：</b> 大学院初級レベルの計量経済学の知識を身につける。		
<b>個別の教育目標：</b> 修士論文を作成、或いは上級の統計学や計量経済学を履修する際に必要な統計学・計量経済学の知識を修得する。		
<b>授業計画：</b>		
1. 行列演算 2. 確率統計 3, 4. 大標本理論 5, 6. 最小2乗推定量：期待値と分散、t検定、最小不偏分散推定量 (BLUE) 7. 多重共線性、線形制約とF検定 8. モデル選択：入れ子型・非入れ子型モデル、AICとBIC、ダミー変数 9. 最小2乗推定値の一致性と漸近正規性 10, 11. 内生性：omitted variables、観測誤差、同時性バイアス 12. 操作変数法 13. 非線形推定と最尤法：非線形回帰、正規分布の尤度関数、最尤推定量 14. 質的変数モデル：プロビット・ロジット		
<b>授業の進め方：</b> 講義形式 (パワーポイント資料と板書を併用)		
<b>テキスト：</b> Greene, W.H. Econometric Analysis, Prentice Hall.		
<b>参考書：</b> 参考文献は、授業時に紹介。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 宿題 (複数回、40%)、期末試験 (60%) で評価する。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/04/27 14:38:23		

授業科目名：上級国際農業政策（研究室）		講義コード：16173044
講義題目：日本農業の構造		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：深川 博史
履修条件：田代洋一著『農業・食料問題入門』を、講義開始時点までに、読了済であること。日本の農業問題に関する専門論文を、10本程度熟読し、学期末に1万字の、小論文を作成してもらいます。		
キーワード：農業問題、日本農業		
<b>授業の概要：</b> ゼミ参加者は、田代洋一著『農業・食料問題入門』を、講義開始時点までに、読み終えて下さい。授業では、日本の農業政策に関する専門論文を、10本程度熟読し、学期末に1万字の、小論文作成を課します。 In this class, the students will read articles on the Japanese agricultural policy. Basic knowledge about the agriculture economics is necessary for seminar participation.		
<b>全体の教育目標：</b> 日本農業の現状について、農業構造の観点から、理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 市場開放下の日本農業の構造改革について理解を深める。		
<b>授業計画：</b> 農業問題と農民問題、戦後期の農業問題、高度経済成長期の農業問題、低成長期の農業問題、市場開放下の農業問題、などについて、論文を精読する予定。		
<b>授業の進め方：</b> 日本農業に関する論文を、輪読する。		
<b>テキスト：</b> 輪読対象の論文を選定後に、各自がそれを資料として準備する。		
<b>参考書：</b> 授業中に指示する。		
<b>学習相談：</b> 授業の前後に対応する。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 日本農業に関する1万字の小論文を提出してもらいます。その小論文に基づき、成績評価を行います。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/28 14:39:45		

授業科目名：比較経済政策特研 I (経510A)		講義コード：16173045
講義題目：経済成長の理論・実証分析		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：宮澤 健介
履修条件：ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を履修していること		
キーワード：経済成長		
<b>授業の概要：</b> 近現代経済の発展について長期的な観点から分析します。 I analyze it about development of modern economies from a long-term point of view.		
<b>全体の教育目標：</b> パワーポイントなどを用いて明快なプレゼンができるようになることが目標です		
<b>個別の教育目標：</b> 現代に至る経済発展の学習		
<b>授業計画：</b> 第1回はガイダンスにあて、2回目以降順番に発表してもらいます。		
<b>授業の進め方：</b> 参加者が輪番で報告し、その報告に基づき討論を行います。		
<b>テキスト：</b> ガイダンス時に提示する。		
<b>参考書：</b> ガイダンス時に提示する。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席・発表・ディスカッションから総合的に判断します。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/23 17:19:12		

授業科目名 : 経済工学特論 (Public Economics) (経510B)		講義コード : 16173046
講義題目 : The way to empirically examine public finance and local public finance issues		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 宮崎 毅
履修条件 : Nothing. But, knowledge about undergraduate-level econometrics is preferable.		
キーワード : Applied econometrics; local public finance; public finance		
<b>授業の概要 :</b> Recent public finance and local public finance studies explore relevant topics, such as taxation, social security, public debt and an interaction between the central and local governments, using game theory, contract theory and political economy model. Related empirical researches have increased with an increase in available data and progress in computer technology. This course learns applied econometrics related to empirical examination of public finance and local public finance by reading a textbook.		
<b>全体の教育目標 :</b> To learn knowledge on applied econometrics relevant to empirical public finance and local public finance		
<b>個別の教育目標 :</b> To understand applied econometrics and be able to read empirical papers		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction and guidance 2-. Presentation and discussion (the first topic will be presented by the lecturer)		
<b>授業の進め方 :</b> Basically, students present the contents of the textbook		
<b>テキスト :</b> Angrist, J. D. and J. Pischke, Mostly Harmless Econometrics, Princeton University Press.		
<b>参考書 :</b> To be presented in class		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Attendance and discussion: 50%; presentation: 50%		
<b>その他 :</b> Students should attend every class		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/09 10:06:39		

授業科目名：上級財務会計（研究室）		講義コード：16173047
講義題目：会計学研究の基盤形成		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：潮崎 智美
履修条件：学部レベルの会計学の知識を有していること。		
キーワード：会計学、研究方法、アカデミック・ライティング		
<b>授業の概要：</b> この授業では、主に会計学領域の研究方法論に関する文献を読み、議論することによって、大学院で会計学を「研究」するために必要な基礎知識、視角、技法を身につけ、自らの研究領域で実践できるようになることを目的としている。 This course includes an introduction to accounting research for Master and PhD students. I will provide some fundamental readings about accounting research methods, that help you to start or develop your own research.		
<b>全体の教育目標：</b> 会計学を研究するために必要な基礎知識、視角、技法を身につける。		
<b>個別の教育目標：</b> 自らの研究領域で実践できる。		
<b>授業計画：</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画書の報告 第3回以降 研究方法に関する文献の輪読および議論、演習 第15回 総括		
<b>授業の進め方：</b> 輪読、議論、演習		
<b>テキスト：</b> 授業中に指示する。		
<b>参考書：</b> ・Smith, M. (2011) <i>Research Methods in Accounting</i> , 2nd Edition, Sage Publishing. (平松一夫監訳[2015]『会計学の研究方法』中央経済社。) ・Ryan, B., R. W. Scapens and M. Theobald (1992) <i>Research Method and Methodology in Finance and Accounting</i> , Academic Press. (石川純治他訳[1995]『会計学・財務		
<b>学習相談：</b> メールでアポイントを取ったうえで来室。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績80%および最終レポート20%		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/23 22:47:14		

授業科目名：経済モデル解析特研 I (経510A)		講義コード：16173048
講義題目：大学院レベルの環境経済学		授業科目区分：
開講学期等：前期	単位数：2.0	担当教員：藤田 敏之
履修条件：特になし。ただし経済学（特にミクロ経済学），数学の知識がまったくない学生の受講は歓迎されない。		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 環境経済学は現代の最重要課題の1つである環境問題を経済学的に分析し，その解決のための環境政策を評価することを目的とした学問である。本講義では環境経済学を専門的に学びたいと考えている経済学府生に対し，理論分析を中心とした環境経済学の中級，上級の内容を概説する。英語のテキストを用い，配布資料もすべて英語を用いるが，講義は日本語で行う。テキストの必要箇所のコピーを配布する予定である。 We learn intermediate-level environmental economics for the graduate students majored in economics. Lectures are based on "Environmental Economics" by Kolstad. All lectures are given in Japanese although the textbook and hanouts are written in English.		
<b>全体の教育目標：</b> 標準的な環境経済学のテキストを理解し，環境経済学に関するテーマでの研究活動ができるようになること。		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 市場と環境（テキスト4-6章） 第5回～第7回 環境評価（テキスト7-10章） 第8回～第11回 環境規制（テキスト11-13, 15章） 第12回～第14回 進んだトピック（テキスト18-20章） 第15回 教場試験		
<b>授業の進め方：</b> 講義形式で行う。		
<b>テキスト：</b> Kolstad, C.D. (2011), Environmental Economics, Oxford University Press, New York, 2nd edition.		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時Eメールで受け付ける。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席20%，レポート30%，試験50%		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/23 15:20:31		

授業科目名 : マクロ数量分析特研Ⅱ (経510A)		講義コード : 16174001
講義題目 : Applied Econometrics II		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 : To be interested in applied econometrics		
キーワード : Econometrics		
<b>授業の概要 :</b> Read academic papers on theoretical and/or applied econometrics.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read and understand academic papers in econometrics		
<b>個別の教育目標 :</b> To develop an ability to understand and use techniques in econometrics		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2.-15. Presentation and discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar		
<b>テキスト :</b>		
<b>参考書 :</b> Selected papers		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> Presentation and discussion		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/22 11:34:09		

授業科目名：上級西洋経済史（経510B）		講義コード：16174002
講義題目：中世末～近世初頭ネーデルラント経済の探究		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：藤井 美男
履修条件：西洋経済史に関する基礎知識を有すること。		
キーワード：西洋経済史、南ネーデルラント経済、市場社会の形成		
<p><b>授業の概要：</b>          経済史は、19世紀に西欧で確立したこの学問分野であり、必然的に『西洋』経済史として成長し、とりわけ16世紀以降の西欧諸国による経済的・政治的世界支配＝資本主義化を様々な角度から見て、理論化しようとしてきた。その時の考察空間は当然『西洋文明社会』に置かれることとなった。          本講義では、近世・近代においてヨーロッパの社会・経済に重要な史的位置を占めた、ネーデルラントを対象とした諸論考を講読することによって、西洋文明社会とりわけ市場社会の成立過程に関する諸局面を観察、理解する。          The main theme of the study “European Economic History” is the empirical and theoretical understandings of the process of the formation of the market-societies, i.e. the Capitalism. The Mercantilism since the beginning of the 16th century put out some European countries to sea, among which appeared the Netherlands as one would realize its “Golden Age” during the 17th century. In this lecture “Advanced European Economic History”, the students will, by reading the textbook, be able to understand the historical importance of the Netherlands in its socio-economic aspect during the late Middle Ages and the early Modern Times.</p>		
<b>全体の教育目標：</b> ヨーロッパの経済史において、重要な意義を有す南ネーデルラント経済の中世末～近世初頭における変遷をたどることによって、市場社会成立に至る諸局面を理解する。		
<b>個別の教育目標：</b> 中世ヨーロッパの重要消費生産物であるワインとビールの歴史を概観し、次いで市場社会の基底を成す金融市場の形成過程を詳細に見た上で、15～16世紀南ネーデルラント経済の全体像を把握していく。		
<b>授業計画：</b> 第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 中世ヨーロッパにおける消費：ワインとビール 第5回～第10回 南ネーデルラントにおける金融市場の形成 第11回～第15回 近世南ネーデルラントの経済と社会		
<b>授業の進め方：</b> 基本的に、教科書を講読することによって進行させる。しかし、テキストはあくまでも勉強のための参考図書であるから、必要な箇所では、他に有用な文献や、しばしば視聴覚資料を受講者の理解を助ける手段に活用する。		
<b>テキスト：</b> 『中世末南ネーデルラント経済の軌跡—ワイン・ビールの歴史からアントウェルペン国際市場へ—』エリック・アールツ著（藤井美男監訳）（九州大学出版会）		
<b>参考書：</b> 適宜講義中に説明する。		
<b>学習相談：</b> オフィス・アワーは随時。相談希望者は下記メールアドレスを使用して事前に予約のこと。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 単位認定に際しては、出席の状況やレポート等の点数も加味する（10～20%）。		
<b>その他：</b> 講義の詳細かつ具体的な仕方については、初回の講義時に行う。		
更新日付：2016/08/23 17:41:16		

授業科目名：管理会計特研Ⅱ (P10)		講義コード：16174003
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：丸田 起大
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 日本的管理会計の理論・実務のトピックを議論します。 必要に応じて、論文などの追加教材を配布します。 Topics in theory and practice of Japanese management accounting will be discussed.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
授業計画：		
<b>授業の進め方：</b> テキストの章を割り当てて発表してもらい、ディスカッションします。		
<b>テキスト：</b> 伊丹・青木『現場が動き出す会計』日本経済新聞出版社		
<b>参考書：</b> 講義中に適宜紹介します。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> レポート 60% 出席状況・参加態度 40%		
<b>その他：</b> 問い合わせ先：maruta@econ.kyushu-u.ac.jp		
<b>更新日付：</b> 2016/09/09 12:21:36		

授業科目名：産業構造特研Ⅱ（経510A）		講義コード：16174004
講義題目：比較経済体制分析		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：堀井 伸浩
履修条件：特に設定しない。		
キーワード：産業構造、産業経済論、経済体制移行、中国経済		
<p><b>授業の概要：</b></p> <p>40年近くという驚異的な長期間に亘って高度成長を謳歌してきた中国経済であるが、さすがに2012年以降、成長減速の様相を示している。そのことを「新常态」と呼び、中国政府は減速しつつも中位安定的な成長軌道への移行を円滑に進めようとしている。これまでの工業化による成長モデルを維持することは困難であり、中国経済が停滞ではなく、安定的な中成長を実現するカギのひとつがサービス経済化を円滑に進めることが出来るかどうか、という点にある。</p> <p>そこで本講義は日本と中国の産業構造の違い、端的に言えばサービス経済化の段階の違い</p> <p>China is now the second biggest economy in the world, following US. Since the end of 1978, when China started her transition toward market economy from planned economy system, China has kept very high economic growth for around 40 years, annual average growth rate is 9.7%. However, we can find the clear sign of Chinese economy slow down, real GDP growth rate dropped to around 7% in 2012 and even 6% in 2015. Chinese government is promoting transformation of economic development model to fit the "new normal", under which moderate economic growth rate is realistic, high growth rate has ended. One of the key points, which determine future of Chinese economy is Chinese government's policy to promote service economy. In this class, we firstly study the experience and issues of Japanese service economy and then conduct research on recent situation in China. Final goal of this class is to understand the issues and prospects of Chinese service economy and its impact on whole Chinese economy development.</p>		
<b>全体の教育目標：</b> 産業経済論の分析手法を実践的に習得する。		
<b>個別の教育目標：</b> サービス経済化に関して日本と中国の状況と課題を理解し、その評価を行うことができる。		
<b>授業計画：</b>		
第1回 オリエンテーション 第2回～第5回 上記①の文献輪読 第6回～第12回 上記②の文献輪読 第13回～第15回 中国のサービス経済化に関するリサーチ報告		
<b>授業の進め方：</b> 主に履修者の発表による演習方式にて授業を進める。		
<b>テキスト：</b> 上の授業の概要を参照。		
<b>参考書：</b> 適宜指定する。		
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは月曜12：00-13：00とする。 これ以外の曜日、日時であってもメールにてアポイントを取ればいつでも相談に乗ります。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席30%、発表70%の割合で評価する。		
<b>その他：</b> 特になし。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/17 18:28:23		

授業科目名：労務管理特研Ⅱ（経510B）		講義コード：16174005
講義題目：人事労務管理等に関する研究の進化		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：遠藤 雄二
履修条件：「労務管理特研Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
キーワード：		
授業の概要： 各自の修士論文に関するテーマについて(労務管理と接する部分を中心として)報告する。 Report on own theme concerning your master's.		
全体の教育目標： 修士論文作成能力の向上		
個別の教育目標：		
授業計画： 毎回、2名が修士論文のテーマに関する報告を行う。		
授業の進め方： 各自の報告の後、討論する。毎回、2名。		
テキスト： なし		
参考書： なし		
学習相談： 適宜、行う。		
試験／成績評価の方法等： 報告・討論内容で評価する。		
その他：		
更新日付：2016/09/26 10:27:12		

授業科目名：日本語経済特研Ⅱ (P20)		講義コード：16174006
講義題目：日本語経済(研究文献講読)		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：儲 梅芬
履修条件：積極的な姿勢で参加すること。		
キーワード：日本語、英語、日本経済、統計手法		
<p><b>授業の概要：</b>  留学生を対象とする本講義の目的は、受講者の日本語能力向上と日本経済に対する理解の伸展を図りつつ、(修士)論文の執筆及び発表を支援することである。そのため、前半は論文作成の作法や統計分析方法を、具体例を挙げながら解説する。計算室の空き状況に応じ、演習も行う予定である。後半においては、受講者による発表を基にした議論およびそれに対する助言を中心に授業を進める。大学院生に相応しい論文執筆能力の養成に努める。</p> <p>This course is open to international graduate students. It is aimed to help students understand Japan's Economy in English or Japanese, and assist students in writing master's theses. In the first half of the course, the methods of master's writing theses in English or Japanese will be explained, and the statistics approaches will be taught and practiced. In the second half of the course, students are required to make presentations related to their research. After completing the course, students are expected to improve their writing skills in English or Japanese..</p>		
<b>全体の教育目標：</b>		
<b>個別の教育目標：</b> 日本語または英語の先行研究文献の読解力を養成する。必要な統計手法を身につける。		
<b>授業計画：</b>		
1. オリエンテーション(受講生の研究テーマを聞く)。 2-7. 論文作成の方法、基本的な統計手法の解説 8-13. 研究発表と議論(日本語を向上させるため、英語の論文や研究計画であっても日本語で発表するのを勧める。) 14-15. 未定・予備(最低一度は実地調査する予定である。)		
<b>授業の進め方：</b> 基本的にゼミ形式で授業を進める。ただし、受講者数によって変更する場合がある。		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> 適宜、資料・レジュメ配布する。		
<b>学習相談：</b> 随時対応		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席および発表:70%、レポート:30%		
<b>その他：</b> 無断欠席はしないこと		
更新日付：2016/09/30 16:36:58		

授業科目名：確率モデル解析特研Ⅱ (P21)		講義コード：16174007
講義題目：確率微分方程式		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：松本 浩一
履修条件：		
キーワード：確率解析，数理ファイナンス，金融工学		
<b>授業の概要：</b> 確率モデル解析特研Ⅰに引き続き，確率モデルの活用する際に有用な確率微分方程式に関して学習する。確率積分，確率微分方程式について概観した後，現実の問題への応用方法について学習する。本講義は特にファイナンスへの応用を重視しており，時間に余裕があれば数理ファイナンスの基礎理論についても学習する。 This lecture is a seminar on stochastic calculus and its application.		
<b>全体の教育目標：</b> 確率微分方程式の応用方法の習得		
<b>個別の教育目標：</b> 確率積分の基礎知識の習得		
<b>授業計画：</b> 講義では Stochastic Differential Equations: An Introduction With Applications を分担して精読し，確率微分方程式とその応用方法を学習する。なお，教科書は受講者と相談のうえ，変更する可能性もある		
<b>授業の進め方：</b> 教科書を分担して担当者が説明し，質疑応答を行うセミナー形式で行う。		
<b>テキスト：</b> Bernt Oksendal, Stochastic Differential Equations: An Introduction With Applications, 6th 版, Springer Verlag, 2003		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の授業での報告，質疑応答を総合的に評価する。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/15 13:43:38		

授業科目名：上級管理会計（経209）		講義コード：16174008
講義題目：管理会計の最近のトピックス研究		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：大下 丈平
履修条件：特になし。		
キーワード：原価計算、管理会計、マネジメント・コントロール、不確実性、パラドックス、パッケージ、レンション、CSR、フランス		
<p><b>授業の概要：</b>  後期の上級管理会計では、管理会計の最近のトピックスを取り上げ、研究の素材とし、それに基づいて議論する。例えば、次のような問題を考えている。まず大きくグローバル化の下での管理会計・マネジメント・コントロールの新しいあり方であり、不確実性と管理会計との関連、さらには管理会計が社会責任や環境問題をどのようにとらえることができるのかについての新しい提案などである。さらに言えば、現在、フランスから提案されている、コントロールのパラドックス概念をフレームワークの軸に据え、ビジネスモデルによってそのパラドックス</p> <p>This senior management accounting takes up several topics of modern management accounting, and has a discussion about them. For example, we consider some issues such as the followings: first of all, what kind of management accounting and management control can we build under the globalization of economics? And the relationship between uncertainty and management accounting? In addition to that, when we are now facing to such a big problem like the globalization of economics, how we can catch the social responsibility and environmental issues in the field of management accounting and management control? And finally, we would like to have a discussion about the ideas of French researchers who put paradox concepts of control in the axis of the framework and try to alleviate its paradoxal situation by making a business model.</p>		
<b>全体の教育目標：</b> 九州大学に独自の原価計算・管理会計の方法的な特徴を理解する。そして、その意義を他の方法論と比較するなかで理解させる。		
<b>個別の教育目標：</b> 現代経営における管理会計・原価計算の考え方、ツール、役割を習得させる。		
<b>授業計画：</b> まず西村明氏の英文の著作を輪読していく。その後は、不確実性と管理会計との関連やCSR 戦略コントロールを学んだあと、いま盛んに議論されるようになったマネジメント・コントロールに関する英語文献を輪読する予定である。その後、フランスの論者のマネジメント・コントロールを取り上げ、比較の視点から議論する。		
<b>授業の進め方：</b> 毎回レポーターを1名決めて、そのレポーターの報告に沿って議論を進めていく。もともと各自の研究が進めば、いつでも論文報告会に変更することができる。		
<b>テキスト：</b> 特に指定しない。		
<b>参考書：</b> 講義の中で、随時紹介する。		
<b>学習相談：</b> 随時に行う。事前にメールでアポイントを取ってください。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績による。		
<b>その他：</b> 随時に紹介する。必要な資料はこちらで配布する。		
更新日付：2016/10/05 08:43:51		

授業科目名：現代経済学特研Ⅱ (105)		講義コード：16174009
講義題目：マクロ労働経済学（サーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場分析）		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：村尾 徹士
履修条件：前期開講の「現代経済学特研Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
キーワード：サーチ・マッチングモデル，労働市場政策，実証分析		
<b>授業の概要：</b> この授業ではサーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場分析について学習する。大学院レベルの代表的な労働経済学の教科書であるCahuc, Carcillo, and Zylberberg (2014)のうち，関連するチャプターを輪読する。 前期の「現代経済学特研Ⅰ」では，サーチ・マッチングモデルの基本的なフレームワークと，その応用として技術進歩やグローバル化が賃金格差や失業に与える影響に関する理論分析を紹介した Part3 (Job creation, job destruction, and The seminar covers topics in labor market analysis using search-matching theory. The first semester focuses on basic framework of search-matching models. The second semester explores impacts of some labor market policies (i.e. employment protection, unemployment insurance, and training) on unemployment and welfare, based on search-matching framework.		
<b>全体の教育目標：</b> サーチ・マッチングモデルにもとづく労働市場政策分析／実証研究を行うための知識を修得すること。またこの分野で研究テーマを見つけることができるようになること。		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b> Chapter12: Income redistribution 1. Taxation and transfers 2. The minimum wage Chapter13: Insurance policies 1. Unemployment insurance 2. Employment protection 3. The interplay between employment protection and unemployment insurance		
<b>授業の進め方：</b> 授業はセミナー形式である。参加者は輪番で教科書の内容を報告し，また内容に関する議論を全員で行う。		
<b>テキスト：</b> Cahuc, Carcillo, and Zylberberg (2014): Labor Economics second edition, MIT Press.		
<b>参考書：</b> [1] Pissarides (2000): Equilibrium Unemployment Theory second edition, MIT Press. [2] 今井, 工藤, 佐々木, 清水 (2007): 『サーチ理論 分権的取引の経済学』, 東京大学出版会。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 学期末のレポートによる。レポートの内容は，(1) リサーチプロポーザル，(2) 実証研究のレプリケーション，(3) 研究テーマに関連する文献サーベイ，の中から各自選択するものとする。レポートに関する詳細は初回の授業で示す。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/29 18:46:52		

授業科目名：数理統計学特研Ⅱ（経209）		講義コード：16174010
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：大西 俊郎
履修条件：線形代数学，多変数の微分積分学，基礎的な数理統計学を習得していること。		
キーワード：最強力検定，正規線形モデル		
<p><b>授業の概要：</b>  統計学はデータから効果的に情報を抽出する方法を論じる学問分野であり，確率論などの数学を用いて理論的にアプローチするのが数理統計学である。  この授業では次の項目を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最強力検定</li> <li>・正規線形モデル</li> </ul> <p>Statistical science discusses how to extract information from data efficiently. Mathematical statistic, which is one of its branches, takes theoretical approaches to this problem by applying mathematics such as probability theory.  We learn the following notions in this lecture.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* Optimal statistical test</li> <li>* Inference in normal models</li> </ul>		
<b>全体の教育目標：</b> 数理統計学の諸概念を学ぶ		
<b>個別の教育目標：</b> 統計的推測手法の理論を理解する		
<b>授業計画：</b> 教科書の第8章・第9章を学ぶ。 8. Optimal Tests of Hypotheses 8.1. Most Powerful Tests 8.2. Uniformly Most Powerful Tests 8.3. Likelihood Ratio Tests 8.4. The Sequential Probability Ratio Test 8.5. Minimax and Classification Procedures 9.		
<b>授業の進め方：</b> セミナー形式で行う。 教科書を分担して担当者が説明し，質疑応答を行う。		
<b>テキスト：</b> Hogg, R.V., McKean, J.W and Craig, A.T. (2012). "Introduction to Mathematical Statistics" 7th ed.		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 授業後など随時受けつける		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の授業での報告，質疑応答を総合的に評価する。 試験は行わない。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/23 17:23:42		

授業科目名 : 現代金融特研Ⅱ (経510A)		講義コード : 16174011
講義題目 : Behavioral Finance		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 木成 勇介
履修条件 : Those who have enough knowledge on Macroeconomics, Microeconomics, Econometrics, and Finance.		
キーワード : Efficient market, Anomaly, Noise, Bias		
<b>授業の概要 :</b> 行動ファイナンスに関する最重要論文を読むことを通じて、行動ファイナンスの基本的な考え方を学ぶ。 This course offers basic concepts of behavioral finance by reading seminal papers in the field.		
<b>全体の教育目標 :</b> You will be able to improve your own financial decision using insights from behavioral finance.		
<b>個別の教育目標 :</b> You will be able to understand the essence of behavioral finance.		
<b>授業計画 :</b> No. 1: Guidance No. 2 to 15: Presentation and Discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Reading list will be offered in the first class. You will be expected to choose one of them and introduce the paper to other participants. Instructor gives you basic concepts of behavioral finance in advance to make it easy to read and understand the r		
<b>テキスト :</b> Reading list will be offered in the first day of class.		
<b>参考書 :</b> Reading list will be offered in the first day of class.		
<b>学習相談 :</b> Anytime		
<b>試験 / 成績評価の方法等 :</b> Attendance (20%), Presentation (30%), Class participation (30%), Assignments (20%)		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/08/17 17:27:26		

授業科目名：マイクロ経済学Ⅱ（経209）		講義コード：16174012
講義題目：ゲーム理論と情報経済学		授業科目区分：基本科目
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：三浦 功
履修条件：M1, 2を対象とし、マイクロ経済学Ⅰを履修済みであることが望ましい。		
キーワード：非協力ゲーム、ナッシュ均衡、不確実性とリスク、保険、情報の非対称性、逆選択、モラルハザード		
<b>授業の概要：</b> 講義の前半では、寡占市場のような自企業の戦略がライバル企業の戦略動向を踏まえながら決定される戦略的相互依存関係が生じる状況を理論的に考察する手法である「ゲーム理論」の基本的な考え方を説明する。後半では、経済環境に不確実性が存在するケースを取り上げ、リスクシェアリングや保険の役割を考察する。さらに、経済主体間で情報保有量が異なるケースで生じる逆選択やモラルハザード問題の特徴および解決策に関して検討する。 First of all, we explain basic structure of "game theory" that is theoretical technique to consider the strategic interdependence relations that the strategy of own company depends on the strategic trend of the rival company such as oligopolistic markets. Next, we take up the case that there exists uncertainty in an economic environment and consider risk sharing and a role of the insurance. Furthermore, we examine adverse selection and moral hazard problems that might occur when there is the asymmetry of information among economic agents.		
<b>全体の教育目標：</b> ゲーム理論と情報経済学の基礎概念を理解させ、現実の経済問題を理論的に分析する為の応用力の涵養を目指す。		
<b>個別の教育目標：</b> 多様な企業戦略の経済学的含意を理解させる。関連して、不確実性や経済主体の私的情報が経済活動にどのような影響を及ぼすかを理論的に把握させる。		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンスおよびゲーム理論の基本構造について説明する。 第2回～第6回 非協力ゲーム理論 第7回～第10回 不確実性の経済学 第11回～第15回 情報の経済学		
<b>授業の進め方：</b> 講義形式が基本。授業中、受講生に適宜質問し、正答が得られた場合、評価に反映する。		
<b>テキスト：</b> 使用しない。		
<b>参考書：</b> 丸山雅祥・成生達彦『現代のマイクロ経済学 情報とゲームの応用マイクロ』創文社 細江守紀・村田省三・西原 宏『ゲームと情報の経済学』勁草書房		
<b>学習相談：</b> メールで、随時、相談に応じる。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 複数回のレポートと小テストに出席状況を加味して評価。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/14 14:46:06		

授業科目名：上級国際会計 (P10)		講義コード：16174013
講義題目：国際会計基準をめぐる論点を理解する		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：小津 稚加子
履修条件：会計学・経営分析に関する基本的な知識があること		
キーワード：国際会計基準 (IFRS)、財務報告、会計基準設定		
<b>授業の概要：</b> IFRS (国際会計基準) を任意適用する日本企業が増えています。この講義で、国際会計基準についての理解を深めるために、国際会計基準が完成するまでにどのようなことが論点となったのかを学習します。テキスト辻山栄子編著『IFRSの会計思考』から受講生が興味を持つ章および日本にとって重要な論文を含む章を選び、輪読します。会計基準のプロジェクトごとに学んでいくので、会計基準設定について学ぶことができます。 In recent years, voluntary adoptors of IFRS (International Financial Reporting Standards) are increasing. In this background, this course provides topics in IFRS. It focuses on IFRS projects to help students to understand how IFRS are developed and what standards setting process is. We read Eiko Tsujiyama's edited book "The Accounting Thinking of IFRS" published in 2016 from Chuokeizai-sha, Tokyo. We study some chapter selections including important issues for Japan's accounting standard setting and Japanese listed firms. Students are required high levels of reading, writing, speaking and listening in Japanese. They should be eligible for basic accounting.		
<b>全体の教育目標：</b> IFRS (国際会計基準) の開発における論点を理解することを通じて、高品質な会計基準、会計基準設定とは何か考える		
<b>個別の教育目標：</b> 会計基準のプロジェクトごとの論点を理解する		
<b>授業計画：</b> 第1回 オリエンテーション 第2回以降、テキストに沿って受講生が報告します。この講義は演習形式です。受講生による報告と質疑で進めます。必要に応じ、また理解を深めるため、テキスト以外の文献や論文を講義中に参照する時間を作ることがあります。		
<b>授業の進め方：</b> 受講生による口頭報告と全体ディスカッション。		
<b>テキスト：</b> 辻山栄子編著『IFRSの会計思考』中央経済社。		
<b>参考書：</b> 国際財務報告基準(IFRS)、中央経済社。		
<b>学習相談：</b> 簡単な質問は講義中、あるいは講義後に受け付けます。15分を超えるときは、別途、相談日を設定します。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 報告回数と担当はなるべく平等に割り振ります。そのうえで、講義の準備状況と積極性など平素の授業への取り組みを評価の基礎点とします (80点)。講義の最後に、講義内容に関するレポートを作成、提出してもらいます (20点)。		
<b>その他：</b> 講義内容についてわからないことがあれば、早めに質問をしてください。		
更新日付：2016/09/28 16:21:53		

授業科目名：上級情報経済（経510A）		講義コード：16174014
講義題目：情報経済概論		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：篠崎 彰彦
履修条件：学部時代に経済学の基礎（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学）を学んでおくことが望ましい。		
キーワード：情報経済、企業経済、グローバル化		
<b>授業の概要：</b> この科目では、情報通信技術の進歩と普及が経済に及ぼす影響の分析に必要な研究の枠組みと実際の実際の応用研究内容について、グローバルな観点から学んでいく。 In this class we will learn the analytical framework of information economy and then we will survey applied studies regarding the impact of information technology to the economic growth in global perspectives.		
<b>全体の教育目標：</b> 情報技術革新の影響について経済学的な視点からの理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 情報経済を包括的に分析する経済学の枠組みを修得する。		
<b>授業計画：</b>		
1. ガイダンス 2. 情報経済の分析枠組み：循環と成長 3. 情報経済の歴史と背景：情報経済学と情報化社会論 4. 情報経済の応用と課題：マクロ分析、ミクロ分析、産業分析、グローバル分析		
<b>授業の進め方：</b> 講義と演習の併用による。		
<b>テキスト：</b> Digital Dividends (World Bank)、Information Economy (UNCTAD)、『インフォメーション・エコノミー』NTT出版（2014年）他、いくつかの論文、報告書などを用いる。		
<b>参考書：</b> 初回にリーディング・リストを提示する。		
<b>学習相談：</b> 火曜日11：00～12：00のオフィスアワーおよび授業の前後に適宜受け付ける。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> ・出席、報告、ディスカッションへの参加姿勢、レポート提出など平素の貢献度合いを考慮する（50％）。 ・期末試験もしくはレポート（50％）で総合評価。 ・無断欠席や無気力な参加、他の受講生の意欲を削ぐような姿勢が続く場合、改善がみられないと単位は認められない。		
<b>その他：</b> 十分な予習と復習に基づく深い議論を重視する。		
更新日付：2016/08/03 16:28:57		

授業科目名：経済システム特論（エネルギー産業史特研Ⅱ（P20）		講義コード：16174015
講義題目：エネルギー産業の経済・政治・軍事		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：三輪 宗弘
履修条件：		
キーワード：エネルギー，石油，石炭，産業政策，戦時経済		
<b>授業の概要：</b> 修士論文作成に向けて、研究テーマにつながる研究を報告する。もしくは各自の研究テーマに関係する先行研究を批判的に報告する。  In order to complete your master paper. You will present your survey and progress of your master paper. Or you will critically present related academic papers of your research.		
<b>全体の教育目標：</b> 修士論文を書き上げるために、問題意識を明確にし、問題意識に基づき、これまでの先行研究や資料をどのよう読み解釈するのか、明確にする。		
<b>個別の教育目標：</b> 文章力を向上させること。そのためにはいい論文を読まなくてはならないし、日々文章を書くことを意識して論文を読まなければならない。		
<b>授業計画：</b> 各自の研究報告を行う。報告者を決定し、報告者はレジメを作成して、レジメに基づき1時間報告し、質疑応答を30分から1時間行う。 修士1年生は、最初に卒業論文の骨子を報告する。		
<b>授業の進め方：</b> 報告および輪読（論文） 投稿論文の報告		
テキスト：		
参考書：木下是雄『理科系の作文技術』		
学習相談：随時、メールで事前にコンタクトをお願いします。		
試験／成績評価の方法等：報告と研究に対する取り組み		
その他：修士論文は若い皆さんにとって大切な最初の本格的な論文です。格闘してください。		
更新日付：2016/03/26 17:50:19		

授業科目名：マイクロ経済分析特研Ⅱ（経510B）		講義コード：16174016
講義題目：不完備契約理論		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：三浦 功
履修条件：M2～D3までを対象とし、マイクロ経済学Ⅰ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。		
キーワード：立証不可能な情報、不完備契約、関係特殊的投資、ホールドアップ問題、所有権、負債契約		
<b>授業の概要：</b> この講義では、不完備契約理論に依拠しながら、企業組織や財務に関する諸問題、とりわけ、所有権や負債契約について説明する。 In this lecture, we explain miscellaneous problems about corporate organization and finance, especially focusing on the ownership and the debt contract in the framework of incomplete contract theory.		
<b>全体の教育目標：</b> ミクロ経済学の先端理論である不完備契約理論の基礎概念を理解させる。		
<b>個別の教育目標：</b> 不完備契約理論を通じて望ましい所有権の在り方や負債契約を現実の経済活動に関連づけながら理解させる。		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンスおよび不完備契約理論の基本的枠組みを説明する。 第2、第3回 取引費用の経済学 第4回から第6回 不完備契約モデル 第7回から第10回 負債契約モデル 第11回から第15回 受講生による関連論文の報告		
<b>授業の進め方：</b> 初回から10回目までは、講義形式で不完備契約理論の基礎的概念を説明する。11回目以降は、受講生に交替で関連論文を報告してもらう。		
<b>テキスト：</b> 鳥居昭夫訳『企業 契約 金融構造』、慶応義塾大学出版会		
<b>参考書：</b> 津曲正俊『契約と組織の理論』、三菱経済研究所 中泉拓也『不完備契約理論の応用研究』 関東学院大学出版会		
<b>学習相談：</b> メールで、随時、相談に応じる。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/14 14:47:48		

授業科目名：経済数学特研Ⅱ (P21)		講義コード：16174017
講義題目：経済数学特研Ⅱ		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：小室 理恵
履修条件：2016年度前期の「経済数学特研Ⅰ」を履修していること。ただし、自習等で前期に学んだ内容を理解している場合は相談に応じる。		
キーワード：Dynamic Programming		
<b>授業の概要：</b> 前期に引き続き、離散時間の Deterministic Dynamic Programming の理論を学ぶ。 This is the follow-up course to "course 1". See the description of the first course for details.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 下に挙げた教科書の第5章を読む。		
授業の進め方：輪講形式		
テキスト：Recursive Methods in Economic Dynamics (Stokey and Lucas)		
参考書：		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：出席と発表で評価する。		
その他：		
更新日付：2016/09/15 20:49:44		

授業科目名：産業配置特研Ⅱ (P21)		講義コード：16174018
講義題目：大都市圏における知識経済		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：山本 健兒
履修条件：前期に開講する産業配置特研Ⅰも履修すること。また、知識、都市、経済発展などの間の関係に関心を持っていること。		
キーワード：知識、経済、大都市圏、情報、交通、生産		
<b>授業の概要：</b> Lakshmanan, T.R. et al (2016) Knowledge Economy in the Megalopolis. Interactions of innovations in transport, information, production and organizations. London and New York: Routledge読みディスカッションするとともに、時に応じて、参加学生による独自の研究報告とこれに基づくディスカッションを行う。		
<b>全体の教育目標：</b> 大都市圏経済における知識、情報、交通、生産などが持つ意味について考える力を持つようになること。		
<b>個別の教育目標：</b> 英語でかかれた学術論文を批判的に読み、それをレポートの形で口頭報告するとともに、文章としても提示する力を身につけること。		
<b>授業計画：</b> 第1回目からテキスト(全8章)を読む。あわせて、特に応じて参加院生による研究報告とする。		
<b>授業の進め方：</b> 演習形式で進める。		
<b>テキスト：</b> Lakshmanan, T.R. et al (2016) Knowledge Economy in the Megalopolis. Interactions of innovations in transport, information, production and organizations. London and New York: Routledge。前期に開講する産業配置特研Ⅰの授業で配布しておく。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時応ずるので、e-mailでアポイントメントを取ること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の学習態度と授業への出席・参加の積極性の状況、及びレポートで総合的に判断する。		
<b>その他：</b> 無欠席、無遅刻、無早退が当然です。なお、夏の在外研修からの帰国日の都合から、第1回は参加予定院生と相談して決める。		
<b>更新日付：</b> 2016/04/12 19:31:20		

授業科目名：経営政策特研Ⅱ (P11)		講義コード：16174019
講義題目：経営財務		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：大坪 稔
履修条件：		
キーワード：資金調達、投資決定、資本コスト、配当政策、資本市場		
<b>授業の概要：</b> この講義は、経営財務の基礎的知識について、講義形式で進めていきます。具体的には、企業の資金調達、投資決定、配当政策、資本コスト、企業価値などについて学習します。 In this course, graduate students will learn "Corporate finance". Corporate finance relates to cash or funds of a firm, which includes fundraising, investment, dividend policy. For example, students will learn methods a firm raises funds (Equity finance or debt finance).		
<b>全体の教育目標：</b> 経営財務の基礎的知識や考え方について理解できるようになること		
<b>個別の教育目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な資金調達方法とその違いについて理解すること</li> <li>・ 最適な投資決定・配当政策の方法について、理解すること</li> <li>・ 企業価値、株式価値、社債価値などの算出方法について理解すること</li> </ul>		
<b>授業計画：</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 財務の役割と隣接領域</li> <li>3 投資決定 (1)</li> <li>4 投資決定 (2)</li> <li>5 多様な資金調達の方法</li> <li>6 資本構成 (1)</li> <li>7 資本構成 (2)</li> <li>8 エージェンシー問題</li> <li>9 ポートフォリオ理論 (1)</li> <li>10 ポートフォリオ理論 (2)</li> <li>11 株価・債券の理論価格</li> <li>12 配当政策</li> <li>13 資本市場の役割</li> <li>14 日本企業の財務行動 (1)</li> <li>15 日本企業の財務行動 (2)</li> </ol>		
<b>授業の進め方：</b> 講義形式で進める		
<b>テキスト：</b> 事前に資料を配布します		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 講義終了後		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の態度		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/24 10:34:36		

授業科目名：経済工学特論 (Labor Economics) (経510B)		講義コード：16174020
講義題目：Labor Economics		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：橋本 由紀
履修条件：This class is intended for students with basic knowledge of econometrics and micro economics.		
キーワード：Wages, Working Hours, Human capitals, Unemployment		
<b>授業の概要：</b> This course will focus on labor market institution operating in imperfect labor markets. Topics include theoretical and empirical approaches to human capital and wage determination, wage income inequality, unemployment and minimum wages, working hours, unions, implicit contract theory, efficiency wage hypothesis, and active labor market policies.		
<b>全体の教育目標：</b> The objectives for this course are to: 1) have developed an understanding of how labor markets work in theory and in practice 2) be able to make an evaluation of current policy debates in the area		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b>		
1 Labor Market: An Overview 2 Minimum Wages 3 Unions and Collective Bargaining 4 Payroll Taxes 5 Regulation of Working Hours 6 Retirement Programs 7 Family Policies 8 Education and Training 9 Migration Policies 10 Employment Protection Legislatio		
<b>授業の進め方：</b> This is a seminar-style class. Class will involve discussions, lectures, and reading.		
<b>テキスト：</b> Boeri, Tito, and Jan Van Ours. The Economics of Imperfect Labor Markets (second edition). Princeton University Press, 2013. Cahuc, Pierre, Stéphane Carcillo, and André Zylberberg. Labor Economics (second editon), MIT press, 2014.		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> Appointment by e-mail		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> Grades will be determined by in-class presentation (50%) and class participation (50%).		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/21 20:36:14		

授業科目名 : アジア経済調査論特研 I (経510B)		講義コード : 16174021
講義題目 : Environmental Issues and Policies in Asia		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 今井 健一
履修条件 : 特になし		
キーワード : Asia, environmental issues, environmental policies, environmental economics		
<p><b>授業の概要 :</b>          授業の前半では、環境経済学の基本的理論と概念を学ぶとともに、それらがアジアで現実に行き起している環境問題の分析(背景・原因や政策)にどのように応用できるかについて学びます。そして、授業の後半では、国際学術誌からの論文あるいは参考文献を用いて、アジアの環境問題にかかるいくつかのトピックについて(例えば、再生可能エネルギー)議論をし、理解を深めます。国際学術誌論文あるいは参考文献のコピーは事前に配布します。また、学生は、事前に配布された国際学術誌論文についてクラスで発表することが求められます(授業全スケジュール中)</p> <p>A first half of the course focuses on basic theories and concepts in environmental economics and their applications to real-world issues in Asia. Then, a second half of the course focuses on several selected issues and discuss them in detail. Selected articles from international journals and other materials are used for class discussion. They will be distributed to students in advance. During the course students are requested to make class presentation on assigned articles.</p>		
<p><b>全体の教育目標 :</b>          Through this course students familiarize themselves with major environmental issues in Asia and have a better understanding on an economic analysis of environmental issues and policies.</p>		
<p><b>個別の教育目標 :</b>          It is expected that students increase their abilities to read and write academic papers as well as to make presentation.</p>		
<p><b>授業計画 :</b></p> <p>第1回(10/5, 13:00-14:30) Introduction          第2回(10/12, 13:00-14:30) Foundations (1)          第3回(10/12, 14:50-16:20) Foundations (2)          第4回(10/26, 13:00-14:30) Environmental Pollution (1)          第5回(10/26, 14:50-16:20) Environmental Pollution (2)          第6回(11/9, 13:00-14:30)</p>		
<p><b>授業の進め方 :</b> Lecture or paper presentation 60 minutes          Discussion 30 minutes</p>		
<p><b>テキスト :</b> Text: Perman, Roger, Yue Ma, James McGilvary, and Michael Common (2012), Natural Resource and Environmental Economics 4th edition, Essex: Pearson Education Limited.</p>		
<p><b>参考書 :</b> Reference materials: Selected articles</p>		
<p><b>学習相談 :</b> After the class or by email.</p>		
<p><b>試験/成績評価の方法等 :</b> Term Paper: 50%          Class participation and presentation: 30%          Test: 20%</p>		
<p><b>その他 :</b> In principle, classes are held once (Wednesday, 13:00-14:30 &amp; 14:50-16:20) every two weeks. Check this syllabus for class schedule.</p>		
<p><b>更新日付 :</b> 2016/09/13 19:09:05</p>		

授業科目名 : アジア経済調査論特研Ⅱ (経510B)		講義コード : 16174022
講義題目 : East Asia's Economic Development		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 戴 二彪
履修条件 : 主に修士・博士課程の学生(students of graduate school)を対象。 ただし、高学年の学部生も履修可能。		
キーワード : East Asia, Economic Development, FDI, Trade, Migration, Income inequality		
<b>授業の概要 :</b> 講義は英語で行われる。 Firstly, this course will review the recent trends in East Asian economic development and discuss the features of East Asian development model. Then, the mechanism of East Asian economic development and some problems faced by this region will be discussed and analyzed in detail. The reference papers used for class discussion are selected from international journals and other sources. References for each lecture will be distributed to the participants in advance. All students are requested to make class presentation based on reference papers.		
<b>全体の教育目標 :</b> Through this course students are expected to (1) have a better understanding on the mechanism of East Asian economic development (2) have an overall view on the major problems which East Asian countries are facing (3) master some useful app		
<b>個別の教育目標 :</b> Students are trained to improve their ability to read, write, and present English paper.		
<b>授業計画 :</b> 第1回 (PM 14:50-16:20, 10/5) Introduction 第2回 (PM 13:00-14:30, 10/19) Recent trends in East Asian economic development 第3回 (PM 14:50-16:20, 10/19) The East Asian model of economic development 第4回 (PM 13:00-14:30, 11/2) Trends of Japan's Economic Growth 第		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture or paper presentation: 60 minutes (×2) Discussion: 30 minutes (×2)		
テキスト : No		
<b>参考書 :</b> 1. Papers selected from international academic journals 2. Other important papers and books		
学習相談 : E-mail: dai22eb@gmail.com		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Term paper: 50% Class participation and presentation: 50%		
その他 : Basically, classes are held once every two weeks (PM 13:00-16:20, Wednesday)		
更新日付 : 2016/09/29 15:04:45		

授業科目名：開発経済特研 I (経510B)		講義コード：16174023
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：水野 敦子
履修条件：上級開発経済を履修済であること。		
キーワード：開発経済		
<b>授業の概要：</b> 開発途上国経済に関する論文を選択し、輪読する。また、各人の研究発表を行い議論を深める。 This course is an intermediate course of the graduate level development economics.		
<b>全体の教育目標：</b> 開発経済について理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 開発経済について学び、考察を深める。		
<b>授業計画：</b> 開発経済に関する、論文を輪読する。また、各自の研究を報告する。		
<b>授業の進め方：</b> 輪読対象の論文を選択後に、それらを分担して報告する。 学期末には1万字の小論文を作成する。		
<b>テキスト：</b> 主要論文を選択後に、各人がそれらを輪読資料として準備する。		
<b>参考書：</b> 授業中に指示する。		
<b>学習相談：</b> 授業の前後に対応する。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 発表（プレゼンテーション）および学期末に作成する1万字の小論文に基づいて評価する。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/13 18:05:36		

授業科目名：経済システム特論（経営管理特研Ⅱ）（P10）		講義コード：16174024
講義題目：経営組織学演習		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：関 延媛
履修条件：経済システム特論Ⅰを受講した学生であることが望ましい。		
キーワード：		
<p><b>授業の概要：</b>  受講者の研究に関連した経営・組織理論の先行研究や、ワーク・イン・プログレスの学位論文を発表する。レジュメと資料は、事前に受講者全員に配布し、受講者は質問・コメントを準備する。全ての発表は、科学的方法論に基づいた、理論的貢献を意図した“学術研究”，実証研究であること。（政府、政策研究機関、コンサルティング会社などの政策報告書、調査報告書などは対象外。）  経営管理特研Ⅰを履修したほうが望ましい。  This course is a seminar in which students present and discuss the academic papers which are related with their research topic or work in progress thesis/dissertation. Presenters are expected to distribute reading materials to all listeners before the class; and, the listeners need to prepare questions and comments based on reading the materials.  For those who did not take the course in the spring semester (i.e., 経営管理特研Ⅰ), I would expect them to have some knowledge in statistics and econometric, and have some experiences in reading articles in academic journals.</p>		
<b>全体の教育目標：</b> 受講者が取り組んでいる研究に関連したプレゼンテーションとディスカッションを行う。		
<b>個別の教育目標：</b> 受講者の研究に関連した経営・組織理論の先行研究の発表とディスカッション，ワーク・イン・プログレスの研究発表，学会発表練習など，各自の研究活動に役に立つよう，積極的に参加する。		
<b>授業計画：</b> 1. Orientation 2～15. Presentation & Discussion		
<b>授業の進め方：</b> 学生の研究発表を基に授業を進める。		
テキスト：		
参考書：		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：		
その他：		
更新日付：2016/09/30 14:14:19		

授業科目名：数理計画特研Ⅱ（経510A）		講義コード：16174025
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：小野 廣隆
履修条件：数理計画の基礎を理解していること。		
キーワード：数理計画，最適化，オペレーションズ・リサーチ		
<b>授業の概要：</b> 以下のテーマに関する論文あるいは洋書を輪講し、討論する。 組合せ最適化、アルゴリズム論的ゲーム理論 Reading papers/books about the following topics and discuss about them: Operations Research, algorithmic game theory.		
<b>全体の教育目標：</b> 最適化手法の原理，その正当性，適用の範囲などについて、特に「計算」の立場から理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 各テーマにおける「問題」「モデル」「解」、そして「解法」を理解した上で、それに対する計算容易性，計算困難性を理解する。		
<b>授業計画：</b> 最新の研究論文を読み、「最適化」の現状と研究動向を理解する。 1. ガイダンス 2. ～15. 報告と討論		
<b>授業の進め方：</b> 輪講形式		
<b>テキスト：</b> 第1回目に決定する。		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 普段の議論への貢献，また発表を評価の対象とする。		
<b>その他：</b> 昨年度は“Network, Crowds, Markets” <a href="https://www.cs.cornell.edu/home/kleinber/networks-book/">https://www.cs.cornell.edu/home/kleinber/networks-book/</a> を読みました。		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 13:18:46		

授業科目名：貿易投資分析特研Ⅱ (P20)		講義コード：16174026
講義題目：グローバル生産システムと多国籍企業 (Global production system and multinational corporations)		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：石田 修
履修条件：		
キーワード：グローバリゼーションの効果と功罪 多国籍企業の行動変化 直接投資のアンバンドリング 金融化		
<b>授業の概要：</b> 前半では、指定したテキストを読破し、その内容を討論する。後半では、各自が論文を選択し、その内容と論点を報告し、討論する。 During the first half of the seminar, we read through the textbook and argue lots of points raised by the author. Alongside the reading and discussing, we study many aspects of global production system. On the second half of the seminar, you have to select a interesting academic paper and report the content. We discuss the contribution of the paper.		
<b>全体の教育目標：</b> 世界経済の構造変化を理解する		
<b>個別の教育目標：</b> 多国籍企業の活動の変化が、世界経済に大きな影響を与えてことを理解する		
<b>授業計画：</b> テキストや論文の内容を分担して報告し、その論点を討論する。		
<b>授業の進め方：</b>		
<b>テキスト：</b> 木村福成・椋寛『国際経済学のフロンティア』 東京大学出版会 木村福成 他 『東アジアの生産ネットワークと経済統合』、慶應義塾出版会		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b>		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/29 14:20:52		

授業科目名：日本経営論特研Ⅱ (P11)		講義コード：16174027
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：内田 大輔
履修条件：経営領域における実証研究に関心があること。 To have interests in empirical research in organization and management field.		
キーワード：経営戦略論，実証研究		
<b>授業の概要：</b> 本講義の目的は、経営領域において実証研究を遂行する力を養う場を提供することにある。具体的には、経営戦略論における理論的発展および研究手法を概観したうえで、経営領域における専門学術雑誌である『組織科学』および『日本経営学会誌』に掲載されているイノベーション、M&A、組織、戦略、コーポレート・ガバナンスに関わる問題に注目している実証研究を取り上げ、それぞれの経営現象がどのように説明されているかを検討していく。 The purpose of this course is to develop abilities to accomplish empirical research in the field of organization and management. First, we overview strategy theory and then read articles published in major Japanese management journals, investigating innovation, merge & acquisition, organizational structure, strategic management, corporate governance. In the class, we discuss how to empirically investigate phenomenon of management.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2回 経営戦略論の学説史1 第3回 経営戦略論の学説史2 第4回 経営戦略論の学説史3 第5回 戦略思考の作法 第6回 戦略思考の実践1 第7回 戦略思考の実践2 第8回 戦略思考の実践3 第9回 戦略思考の実践4 第10回 日本のイノベーション研究 第11回 日本の組織研究 第12回 日本のM&A研究 第13回 日本の戦略研究 第14回 日本のコーポレート・ガバナンス研究 第15回 最終発表		
授業の進め方：		
テキスト：毎回の講義において、読むべき文献を指定します。		
参考書：		
学習相談：オフィスアワー：随時。事前にメール（アドレス：duchida@econ.kyushu-u.ac.jp）でご連絡ください。		
試験／成績評価の方法等：		知識・理解 汎用的技能
態度・志向性		
レポート/ Report	◎ ○ ○ ○ ○	
発表（プレゼン・スピーチ等）/ Presentation	◎ ○ ○ ○ ○	
授業への貢献度/ In-class contribution	◎ ○ ○ ○ ○	
出席 / Attendance	◎ ○ ○ ○ ○	
<b>その他：</b> 毎回の講義において、課題を提示しますので、該当論文を読み、レジュメおよび発表資料を作成する必要があります。授業では、事前の課題への準備で見つけた疑問点や論点を中心に議論を進めていきます。		
更新日付：2016/09/08 18:29:20		

授業科目名：経済システム特論（産業政策特研Ⅱ）（研究室）		講義コード：16174028
講義題目：デジタル経済の分析		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：実積 寿也
履修条件：特になし		
キーワード：ネットワーク効果、産業組織、競争均衡		
<b>授業の概要：</b> テキストを批判的に読み進めながら、デジタル経済の諸現象について経済学的に分析する。 Read the textbook and discuss the related topics		
<b>全体の教育目標：</b> ミクロ経済学の知識をもちいて現実の企業行動を分析する。		
<b>個別の教育目標：</b> デジタル経済を分析するための基本的な視点を獲得する。		
<b>授業計画：</b> 発表担当者を指名し、テキストを読み進める。 具体的な授業計画等については、第1回目の講義で学生との話し合いに基づいて決定する。		
<b>授業の進め方：</b> 受講者数に依存するものの、基本的には演習形式で行う		
<b>テキスト：</b> Kenneth Train (1991) Optimal Regulation: The Economic Theory of Natural Monopoly (MIT Press)		
<b>参考書：</b> 適宜指定する。		
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは金曜日12:45~14:00としているが、事前に教員にアポイントメントをとった上で訪問すること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> レポートと授業参加等を総合的に評価する。		
<b>その他：</b> 講義では英語を多用するため、一定の英会話能力が必要である。		
<b>更新日付：</b> 2016/08/27 21:21:56		

授業科目名：比較経済制度特研Ⅱ（経510B）		講義コード：16174029
講義題目：ユーロ危機とEUの政治経済学 Political Economy of Euro Crisis and the EU		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：磯谷 明德
履修条件：特になし。		
キーワード：ユーロ危機、金融グローバリゼーション、地域統合、正統化問題、デモクラシー		
<b>授業の概要：</b> 本講義においては、経済学と国際政治学という分析方法を異にする2つの著作の輪読を通して、ユーロ危機とEUの政治経済学的な分析を行う。一方の著作では、ユーロ危機を長期の視点で複合的な要因の合成として捉えようとし、もう一方の著作では、ユーロ危機の本質を、ユーロそのものの問題とユーロを超えた問題であるEUの正統化問題として理解しようとする。半年間の講義と議論を通じて、以上のようなユーロとEUについて、短期の現象論的理解にとどまらないより長期の視点と経済学の範囲にとどまらないより広範な分析視点の獲得に努める。 Through reading two books in which the methods of analysis are different, this class makes an attempt of the political economic analysis of Euro crisis and the EU. One book attempts to understand the Euro crisis as the composition of multiple factors, and the other book attempts to figure out the essence of Euro crisis as the problem of Euro itself and of the legitimacy of the EU. Thus, this class aims at acquiring the long-term perspectives and the analytical viewpoints beyond the scope of economics concerning Euro and the EU.		
<b>全体の教育目標：</b> 本年度の大学院ゼミでのテーマは「東アジアとEU」である。ある特定の国の経済システムをより深く分析するだけでなく、グローバル経済の中での各国の経済システムの収斂と多様性というダイナミズムという視点から、対象とする経済システムの独自性・特異性やその将来についての理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 事前の準備と予習を必ず行うこと。 また、報告に際しては、関連する文献の収集とそれへの言及が求められるので、その準備をすること。		
<b>授業計画：</b> 第1回 日程決定 第2回 無視された知的起源 第3回 制度的・歴史的な分析とユーロ圏危機 第4回 ユーロの政治的正統性 第5回 ユーロ圏危機と金融グローバリゼーション 第6回 欧州理事会とユーロの信認 第7回 ユーロの終焉か、ヨーロッパ合衆国か 第8回 ヨーロッパ統合の政治学 第9回 鏡としてのヨーロッパ統合 第10回 拡大ヨーロッパの政治的ダイナミズム 第11回 統合の終焉 第12回 ポスト・ナショナリズムにおける正統化の諸問題 第13回 ユーロ危機の本質 第14回 多元にして可		
<b>授業の進め方：</b> 受講者による分担報告と討論を中心とした演習形式。		
<b>テキスト：</b> ・ ロベール・ボワイエ（山田鋭夫・植村博恭訳）『ユーロ危機—欧州統合の歴史と政策』藤原書店、2013年。 ・ 遠藤 乾『統合の終焉—EUの実像と論理』岩波書店、2013年。		
<b>参考書：</b> ・ B・アマーブル・田中素香・福田耕治・山田鋭夫・植村博恭「ユーロ危機と欧州統合のゆくえ」『環』Vol.57、2014年春。 ・ Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) Diversity and Transformations of Asian Capitalisms, Routledge, Paperback edition, 2013. (Chapter 15 and 16) ・ 田中素香『ユーロ危機の中の統一通貨』岩波新		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績（出席と報告内容）とターム・ペーパーの提出による評価。		
<b>その他：</b> 本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）開放科目。 <a href="http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html">http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html</a> 本科目では、EUを主題に講義を行う。		
<b>更新日付：</b> 2016/04/10 22:51:44		

授業科目名：マクロ経済分析特研Ⅱ (P10)		講義コード：16174030
講義題目：景気循環理論		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：池下 研一郎
履修条件：履修条件は特にありませんが、学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学に関する知識をすでに身に着けていることが望ましいです。		
キーワード：景気循環、RBC、価格の硬直性、ニューケインジアン・モデル		
<b>授業の概要：</b> 本講義では、最適成長モデルをベースに、現代的な景気循環理論を学び、マクロ経済政策の効果について考察します。その過程において、マクロ経済モデルを学ぶ際に不可欠な分析ツールを身に着けていくと同時に、より現実的なマクロ経済に関する問題についても考えていきます。 In this course, you will study modern theories of business fluctuation based on Ramsey-Cass-Koopmans model and consider effects of macroeconomic policies. In this process, you will be able to acquire analytical tools necessary to study modern macroeconomic models and discuss some real economic problems.		
<b>全体の教育目標：</b> 本講義では景気循環理論の学習を通じて、修士論文を書く際に必要となるマクロ経済分析の基礎的な知識や技能を修得することを目標とします。		
<b>個別の教育目標：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な景気循環理論に関する議論を理解し、説明することができる。</li> <li>・景気循環理論の考え方をを用いて現実経済に関する問題を発見し、諸問題を分析できる。</li> <li>・景気循環理論に関する議論や自らの問題意識、分析結果等を効果的にプレゼンテーションできる。</li> </ul>		
<b>授業計画：</b> 本講義では、大まかには実物的景気循環モデルとニューケインジアンモデルの2つについて学ぶ。具体的には以下のような内容を予定しています。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Some Facts about Economic Fluctuations</li> <li>3. A Baseline Real Business Cycle Model</li> <li>4. Some Implications of RBC</li> <li>5. Exogenous Nominal Rigidity</li> <li>6. Microeconomic Fo</li> </ol>		
<b>授業の進め方：</b> 本講義では、主に教科書を軸にゼミナール形式で授業を進めていきます。また講義の間に複数回の課題を出します。		
<b>テキスト：</b> 教科書としては以下のものを使用します。 David Romer, Advanced Macroeconomics, 4th edition, McGraw-Hill, 2012.		
<b>参考書：</b> 第1回目のガイダンスにて紹介します。		
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは毎週金曜日の10:00～12:30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします（事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです）。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 課題レポート、発表、授業への貢献度、出席を用いて評価を行います。 レポート：20% 発表（プレゼン・スピーチ等）：40% 授業への貢献度：20% 出席：20%		
<b>その他：</b> 経済学を理解するためには、十分な時間をかけて綿密に議論を追っていく必要があります。そのための手間を惜しまないこと。		
更新日付：2016/09/13 10:47:48		



授業科目名 : 経済工学特論 (Financial Economics) (経209)		講義コード : 16174032
講義題目 : Financial Economics		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 内田 交謹
履修条件 : To have strong interests in economic principles of capital market issues such as pricing, risk-return relation, determinants of stock returns.		
キーワード : Stock market, Risk-return relation, CAPM, 3-factor model, 4-factor model		
<b>授業の概要 :</b> 本講義では、株式リターンに影響する有名なファクター及びリスク・リターン関係について解説する。前半では、ポートフォリオマネジメントやCAPMなどの古典的な(学部レベルの)理論について解説し、後半で、3-factor model、4-factor model などの近年有力になっている考え方を説明する。これらの内容は、株式市場について理解するとともに、先端的なコーポレートファイナンス研究を行う上でも非常に重要であり、これらの理論を取り入れた論文についても議論する。時間があれば、オプション評価とリアルオプション This course instructs well-known factors associated with cross-sectional stock returns and risk-return relation. The lecture starts with classical (undergraduate-level) theories such as portfolio management and CAPM, and then moves on to advanced issues like 3-factor model and 4-factor model. Those issues are essential to conduct advanced corporate finance research as well as to understand the stock market. We also review empirical papers which introduce those insights. If time allows, we will discuss fundamental theories of option pricing and real option.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand well-known theories and findings in the research of stock returns.		
<b>個別の教育目標 :</b> To be able to incorporate knowledge of capital market issues in your own research.		
<b>授業計画 :</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course guidance and basics of finance</li> <li>2. Portfolio management</li> <li>3. Risk-return relation: CAPM</li> <li>4. Efficient market hypothesis</li> <li>5. Read an empirical paper on fund manager performance</li> <li>6. Arbitrage pricing model (APT)</li> <li>7. Fama-French 3-factor model</li> <li>8. R</li> </ol>		
<b>授業の進め方 :</b> I will get you PPT which includes questions and explanations on the specific issue in advance. Students are asked to answer to the questions after my explanations. Questions are always welcome.		
<b>テキスト :</b> This course does not use specific textbook. I strongly suggest to read the Bidie et al.'s book on investments.		
<b>参考書 :</b> Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus, Investments, McGraw Hill.		
<b>学習相談 :</b> Appoint by e-mail		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Discussion Assignments Exam.		
<b>その他 :</b>		
更新日付 : 2016/09/23 17:49:28		

授業科目名：情報解析特研Ⅱ（経510B）		講義コード：16174033
講義題目：		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：古川 哲也
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 大量のデータを解析するために用いられるコンピュータ技術の現状と動向について研究する。主としてデータを蓄積するためのデータウェアハウスの考え方、オンライン分析処理のためのデータ構成法である多次元データベース、データから有益な情報を取り出すデータマイニングを対象とする。 This course focuses on the current research issues of information technologies for analyzing data, including data mining, big data analysis.		
<b>全体の教育目標：</b> 技術動向を理解するとともに、研究論文を読むことができるようになる。		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b> 最新の研究論文を読むことで、技術の現状と研究動向を理解する。 1. ガイダンス。 2～15. 報告と討論。		
<b>授業の進め方：</b> ゼミ形式。		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> 随時紹介する。		
<b>学習相談：</b> 随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 (メールアドレス：furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp)		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席状況および報告の内容による。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/16 14:02:19		

授業科目名：世界経済特研Ⅱ（研究室）		講義コード：16174034
講義題目：世界経済の構造変化と東アジア経済		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：清水 一史
履修条件：学部の国際経済学や世界経済の科目、経済理論の科目を履修済みのこと		
キーワード：世界経済、国際経済、経済統合、FTA、AEC、TPP、RCEP、経済発展、工業化、国民国家		
<b>授業の概要：</b> グローバル化し構造変化を続ける現代世界経済を、総合的に分析する。すなわち、第二次世界大戦後の国際経済体制や国際貿易・投資の進展、地域経済統合の展開など世界経済の構造変化を分析する。 東アジア地域やアジア・太平洋地域における経済の構造変化にも、解説を加えたい。 テキストは、出席者と相談の上、決定する。アジア政経学会、日本国際経済学会、国際シンポジウム等の最新の報告論文などを教材とすることも検討している。 履修に当たっては、学部レベルの国際経済学や世界経済の知識を備えていること、単位を取得していることを The Seminar about the Structural Change of the World Economy and East Asian Economy.		
<b>全体の教育目標：</b> 世界経済の構造変化の理解		
<b>個別の教育目標：</b> 現代世界経済の構造変化の理解、東アジア経済構造の変化の理解		
<b>授業計画：</b> 初回はガイダンスを行う。2回目以降については、参加院生と相談の上、決定する。		
<b>授業の進め方：</b> 院生の報告をもとに教官が説明を加える。 毎回、全員で議論することとする。 各自毎回必ず発言し、議論に参加することを求める。		
<b>テキスト：</b> 初回の授業で参加院生と相談の上、決定する。		
<b>参考書：</b> 参考図書： 石川幸一・朽木昭文・清水一史編『現代ASEAN経済論』文真堂、2015年。 石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体と日本』文真堂、2013年。 石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体』JETRO、2009年。 清水一史『ASEAN域内経済協力の政治経済学』ミネルヴァ書房、1998年。 アジア政経学会編『現代アジア研究：越境』慶應義塾大学出版会、2008年。 佐々木隆生『国際公共財の政治経済学』岩波書店、2010年。 佐藤秀夫『国際経済』ミネルヴァ書房、		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席と報告を含めた平素の成績（90%）、レポート（10%）		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/24 19:47:14		

授業科目名 : 財政分析特研 I (経510A)		講義コード : 16174035
講義題目 : Graduate-level public finance and local public finance		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 宮崎 毅
履修条件 : Nothing. But, knowledge about undergraduate-level microeconomics and econometrics is preferable.		
キーワード : Boundary reform; intergovernmental relation; redistribution; taxation		
<b>授業の概要 :</b> In this course, participants will read cutting-edge papers on public finance and local public finance. This course mainly focuses on empirical papers on the following topics: income taxation, redistribution, boundary reform, tax and fiscal competition and intergovernmental transfers. For each topic in lectures, we first read basic papers or textbooks and then recent journal articles.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read recent papers on public finance and local public finance		
<b>個別の教育目標 :</b> To understand cutting-edge topics on public finance and local public finance and be able to read relevant papers		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction and guidance 2-. Presentation		
<b>授業の進め方 :</b> Basically, students present the contents of assigned papers and textbooks		
<b>テキスト :</b> To be instructed in the first class		
<b>参考書 :</b> To be presented in class		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Attendance and discussion: 50%; presentation: 50%		
<b>その他 :</b> Students should attend every class		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/09 10:09:22		

授業科目名：上級日本経済史（研究室）		講義コード：16174036
講義題目：商品流通の近代史		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：鷺崎 俊太郎
履修条件：・これまで学部および大学院において、「日本経済史」または「経済史I」を既習していること。前期2科目を未習の者は、本授業の履修を認めない。その代替として、基本科目「経済史I」（水曜1限開講）の履修を推奨する。		
キーワード：日本経済史，商品流通，近代，工業化，都市化		
<b>授業の概要：</b> ・近代日本の商品流通史に関する論文を輪読し，学習することによって，工業化・都市化に対する商業・サービス業の役割を検討する。 The purpose of this class is to read some articles about the commercial network during modern Japan and to understand its contribution to the industrialization and urbanization of 19th Japan. Students must have an essential knowledge about modern Japanese History, especially during Meiji Period, and must finish the class of either "Economic History of Japan" or "Economic History I" placed in the undergraduate course. Unless you learn either class, I recommend you to take the class of "Economic History I" which I teach in the 1st period, every Wednesday.		
<b>全体の教育目標：</b> 近代日本経済史を研究者レベルで理解できるようにする。		
<b>個別の教育目標：</b> 近代日本における商品流通史の意義を，日本経済史のマクロ的な推移の中で位置づけられるようにする。		
<b>授業計画：</b> 1回目：ガイダンス（輪読担当者の決定） 2回目以降：輪読		
<b>授業の進め方：</b> 輪読による発表とディスカッション		
<b>テキスト：</b> 中西聡・中村尚史編『商品流通の近代史』日本経済評論社，2003年		
<b>参考書：</b>		
<b>学習相談：</b> 随時		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平常の出席点・発言回数・報告回数に拠る。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/14 13:39:03		

授業科目名：財政システム特研Ⅱ（研究室）		講義コード：16174037
講義題目：再生可能エネルギーと地域再生		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：八木 信一
履修条件：再生可能エネルギーについて多少なりとも関心を持っていることが望ましい。		
キーワード：再生可能エネルギー、地域再生、地域ガバナンス		
<b>授業の概要：</b> 授業では再生可能エネルギーによる地域再生について、日本だけでなくドイツをはじめとした欧米の動向を踏まえながら理解と議論を行っていく。 This class takes the thema of renewable energy and local regenation. Aspect from economics and public policy, we would try to understand and discuss about present situations and some problems of this thema. The case studies include in Japan and other countries especially in Germany.		
<b>全体の教育目標：</b> 再生可能エネルギーの普及策をめぐる現状と課題を国際比較を交えて理解することができる		
<b>個別の教育目標：</b> 再生可能エネルギーについて、とくに地域再生の観点から理解とそれを踏まえた一定水準以上の議論ができる。		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス（10月7日を予定） 第2回以降 テキストの輪読		
<b>授業の進め方：</b> 事前の予習を前提とした輪読形式にて行う。		
<b>テキスト：</b> 諸富徹編著（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。 吉田文和（2015）『ドイツの挑戦』日本評論社。		
<b>参考書：</b> 植田和弘（2013）『緑のエネルギー原論』岩波書店。 植田和弘監修、大島堅一・高橋洋編著（2016）『地域分散型エネルギーシステム』日本評論社。		
<b>学習相談：</b> 授業終了後、もしくはメールで事前にアポイントメントをとったうえで研究室に来室すること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席規定を満たしていることを前提としたうえで、平常点にて行う。		
<b>その他：</b> 第1回のガイダンスには遅刻することなく出席すること。また、テキストも必ず持参すること。なお、授業の開講情報などはTwitter (@Yatsukiclasq dai) で通知するので、適宜確認すること。		
更新日付：2016/09/15 12:41:12		

授業科目名：企業会計特研Ⅱ（経510A）		講義コード：16174038
講義題目：財務会計の理論と実証		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：大石 桂一
履修条件：		
キーワード：財務会計、実証研究、理論研究		
<b>授業の概要：</b> この授業では、財務会計研究の動向を理解した上で、財務会計の実証研究論文（英文および和文）をクリティークすることで、実証研究に関する理解を深める。なお、講義初日にリーディング・リストを提示する。 The purpose of this course is to increase understanding of empirical research in financial accounting by reading seminal papers (in Japanese and English). Reading list will be provided at the first lecture.		
<b>全体の教育目標：</b> 財務会計の実証研究に関する理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 実証研究の手法、意義、および理論研究との関わりを理解する。		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2回～第8回 資本市場ベースの実証研究 第9回～第15回 契約ベースの実証研究		
<b>授業の進め方：</b> 報告・討論のゼミ形式で行う。		
<b>テキスト：</b>		
<b>参考書：</b> 1. 桜井久勝編『企業価値評価の実証分析』中央経済社、2010年。 2. 首藤昭信『日本企業の利益調整』中央経済社、2010年。		
<b>学習相談：</b> 随時相談に応じる。メールにてアポイントを取ること。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 平素の成績による。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 17:29:38		

授業科目名：経済工学特論 (Industrial Organization) (経510B)		講義コード：16174039
講義題目：Managerial Economics		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：堀 宣昭
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> The aim of this course is to provide tools for the better understanding of the business environment and the improvement of managerial decisions and reasoning based on the theories of the Microeconomics and Industrial Organization.		
全体の教育目標：		
個別の教育目標：		
<b>授業計画：</b> 1. Introduction to Managerial Economics 2. Demand 3. Elasticity 4. Supply 5. Market Equilibrium 6. Economic Efficiency 7. Costs 8. Monopoly 9. Pricing 10. Strategic Thinking 11. Oligopoly 12. Externalities 13. Asymmetric Information		
授業の進め方：Lecture		
テキスト：Ivan Png, "Managerial Economics," 5th Edition, Routledge; 2015.		
参考書：		
学習相談：		
試験／成績評価の方法等：Report 40% Examination 60%		
その他：		
更新日付：2016/09/27 16:13:00		

授業科目名：国際農業政策特研 I (研究室)		講義コード：16174040
講義題目：WTO体制下の市場開放と農業構造改革		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：深川 博史
履修条件：上級国際農業政策を履修済であること。		
キーワード：WTO、FTA		
<b>授業の概要：</b> WTO体制下の日本の農業交渉、FTA交渉に関わる農業問題について、論文を選択し、輪読する。 In this seminar, the students will read articles on the international agricultural policy.		
<b>全体の教育目標：</b> WTO交渉やFTA交渉について理解を深める。		
<b>個別の教育目標：</b> 農業競争力比較について学ぶ。		
<b>授業計画：</b> WTO 農業交渉、FTA 農業交渉などについて、論文を輪読していく。		
<b>授業の進め方：</b> 輪読対象の論文を選択後に、それらを分担して報告する。学期末には1万字の小論文を作成する。		
<b>テキスト：</b> 主要論文を選択後に、各人がそれらを輪読資料として準備する。		
<b>参考書：</b> 授業中に指示する。		
<b>学習相談：</b> 授業の前後に対応する。		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 学期末に1万字の小論文を作成し提出する。その論文に基づいて成績を評価する。		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/14 15:32:28		

授業科目名：比較経済政策特研Ⅱ（経510A）		講義コード：16174041
講義題目：経済成長の理論・実証分析		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：宮澤 健介
履修条件：ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を履修していること		
キーワード：経済成長		
<b>授業の概要：</b> 近現代経済の発展について長期的な観点から分析します。 I analyze it about development of modern economies from a long-term point of view.		
<b>全体の教育目標：</b> パワーポイントなどを用いて明快なプレゼンができるようになることが目標です		
<b>個別の教育目標：</b> 現代に至る経済発展の学習		
<b>授業計画：</b> 第1回はガイダンスにあて、2回目以降順番に発表してもらいます。		
<b>授業の進め方：</b> 参加者が輪番で報告し、その報告に基づき討論を行います。		
<b>テキスト：</b> ガイダンス時に提示する。		
<b>参考書：</b> ガイダンス時に提示する。		
<b>学習相談：</b>		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席・発表・ディスカッションから総合的に判断します。		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/23 17:18:17		

授業科目名：経済モデル解析特研Ⅱ (P10)		講義コード：16174042
講義題目：環境経済学の研究書の輪読		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：藤田 敏之
履修条件：環境問題に関心があり，経済学，数学の基礎知識を持っている人.		
キーワード：環境経済学，環境政策，ゲーム理論		
<b>授業の概要：</b> 鷲田豊明『環境ゲーム論』をテキストとして用いる．受講者に1つの章を選んでプレゼンテーションをしてもらう． We use a textbook on environmental economics and game theory written in Japanese. Students are required to make oral presentations introducing one chapter of the textbook.		
<b>全体の教育目標：</b> 環境問題とその解決方法に関するゲーム理論的手法を身につける.		
<b>個別の教育目標：</b>		
<b>授業計画：</b> 第1回 ガイダンス 第2回 教員による導入講義 第3回～第15回 受講者による報告		
<b>授業の進め方：</b> ゼミ形式で行う.		
<b>テキスト：</b> 鷲田豊明『環境ゲーム論』上智大学出版.		
<b>参考書：</b> 特になし.		
<b>学習相談：</b> 随時eメールで応じる.		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席および態度 40% 発表内容 60%		
<b>その他：</b>		
更新日付：2016/09/21 13:33:49		

授業科目名：財務会計特研Ⅱ（研究室）		講義コード：16174043
講義題目：日本の会計制度に関する英語講読		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：潮崎 智美
履修条件：学部レベルの会計学の知識を有していること		
キーワード：会計制度、IFRS		
<b>授業の概要：</b> 日本の会計制度を英語文献で読むことによって、会計学の専門用語や基礎知識を日本語および英語で身に付けるとともに、日本の会計制度を英語によって表現するための知識とスキルの習得を行う。 The objective of this course is to understand and discuss Japanese accounting system with readings written in English. Course materials are provided in the class.		
<b>全体の教育目標：</b> グループワークを通じて、日本の会計制度に関する英文資料とレポートを完成させる。		
<b>個別の教育目標：</b> 日本の会計制度を習得し、それを英語で表現する力を養う。		
<b>授業計画：</b> 日本の会計制度を英語で表現することを目的として、会計学の専門用語や基礎知識を日本語および英語で身に付けるとともに、日本の会計制度を英語によって表現するための知識とスキルの習得を行う。		
<b>授業の進め方：</b> 担当者による報告と全体議論		
<b>テキスト：</b> 初回の授業で指示する。		
<b>参考書：</b> 授業中適宜指示する。		
<b>学習相談：</b> メールでアポイントを取った上で来室。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 経済学部棟503		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 報告および授業態度（授業への関わり方や発言内容）70%、レポート30%		
<b>その他：</b>		
<b>更新日付：</b> 2016/09/24 09:53:18		

授業科目名：国際金融特研 I (経510A)		講義コード：16174044
講義題目：グローバル化のもとでの現代世界経済 I		授業科目区分：
開講学期等：後期	単位数：2.0	担当教員：岩田 健治
履修条件：国際金融に関する学部レベルの知識が十分にあること。		
キーワード：国際金融、国際通貨、国際通貨制度、金融統合、通貨統合、世界金融危機		
<p><b>授業の概要：</b></p> <p>「国際金融・特研」では、現代の国際金融に関する応用分野での専門的理解を深める。具体的には、グローバル化と国際金融、国際収支の世界的不均衡、金融統合、通貨統合、世界金融経済危機などについて主眼的に研究する。</p> <p>特研 I では、経済統合の諸理論や世界金融経済危機・ユーロ危機の諸問題等について検討を行う予定である。</p> <p>The seminar on Frontier Study in International Finance considers contemporary issues on international finance, such as Globalization, Global imbalances, Financial and Monetary Integration and World Financial Crisis.</p> <p>This seminar on Frontier Study in International Finance I covers some topics on economic integration and financial crisis.</p>		
<b>全体の教育目標：</b>		
国際金融に関する高度な専門知識の獲得。		
<b>個別の教育目標：</b>		
国際金融の個々の応用分野に関するより深い知見の獲得。		
<b>授業計画：</b>		
第1回 ガイダンス 第2回～ 受講者と協議の上決定する。		
授業の進め方：ゼミ形式で報告と討論を行う。		
テキスト：必要に応じて国際金融に関する最新のテキストおよびペーパー(日本語・英語)を開講時に指定する。		
参考書：必要に応じて紹介する。		
学習相談：授業終了後受け付ける。より時間を要する相談は、メールで事前にアポイントをとること。		
試験／成績評価の方法等：平素の成績(100%)による。		
<p><b>その他：</b> * 日本語での報告と議論を基本とするが、英語での報告や議論も認める。</p> <p>* 本科目はEU研究ディプロマプログラム (EU-DPs) 開放科目。  <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</a>  EUそのものについては取り上げないが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な諸課題のうち国際金融面の課題について検討を行う。</p>		
更新日付：2016/09/26 13:48:59		

授業科目名：リサーチ・ワークショップⅢ (経209)		講義コード：16175001
講義題目：リサーチワークショップ		授業科目区分：
開講学期等：通年	単位数：2.0	担当教員：内田 交謹
履修条件：		
キーワード：		
<b>授業の概要：</b> 毎回、研究者をスピーカーとして招聘し、研究報告を行う。 Invited researchers will present their latest research.		
<b>全体の教育目標：</b> 経済学のさまざまな分野における最新の研究動向を知る。		
<b>個別の教育目標：</b> 自身の研究のヒントや有益な研究手法を学ぶ。		
<b>授業計画：</b> 随時、下記の Web-site にスケジュールを掲載する。 <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~kuchida/Workshop.html">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~kuchida/Workshop.html</a> 九州大学経済学部 HP リサーチワークショップ情報にも掲載する。 <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/reserchworkshop_list.php?S_Category=A">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/reserchworkshop_list.php?S_Category=A</a>		
<b>授業の進め方：</b> 毎回、報告者が 90 分間の研究報告を行う。随時質問を受け付ける。 ワークショップは原則として 5 時間目に実施するが、初回 4 月 12 日(火)の 4 時間目に簡単なガイダンスを行う。		
テキスト：		
参考書：		
学習相談：		
<b>試験／成績評価の方法等：</b> 出席を重視する。履修登録者に研究報告を依頼することもある。 4月入学者は、2016年4月～2017年1月の通年で2単位となる。		
その他：		
更新日付：2016/04/12 08:48:53		

授業科目名 : Topics in Economics (Applied Econometrics I) (E510A)		講義コード : 16177001
講義題目 : Applied Econometrics I		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 : To be interested in applied econometrics		
キーワード : Econometrics		
<b>授業の概要 :</b> Read academic papers on theoretical and/or applied econometrics.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read and understand academic papers in econometrics		
<b>個別の教育目標 :</b> To develop an ability to understand and use techniques in econometrics		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2.-15. Presentation and discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar		
<b>テキスト :</b>		
<b>参考書 :</b> Selected papers		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> Presentation and discussion		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/03/16 16:43:06		

授業科目名 : Topics in Economics(labor market analysis) (E510A)		講義コード : 16177002
講義題目 : The economics of labor markets		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 橋本 由紀
履修条件 :		
キーワード : Labor supply, Labor demand, Wages, Human capitals, Employment discrimination, Labor mobility		
<b>授業の概要 :</b> This class will examine the functions of labor markets through reading a textbook and journal papers.		
<b>全体の教育目標 :</b> To improve understanding or academic papers		
<b>個別の教育目標 :</b> To increase understanding of how labor markets work both in theory and practice		
<b>授業計画 :</b> 1 Introduction 2-15 Reading a textbook or a journal paper and discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar-style class. Class will involve presentation, lectures and discussions		
<b>テキスト :</b> Cahuc, P., Carcillo S. and Zylberberg, A. (2014). Labor economics, 2nd edition. MIT press. Ashenfelter, O., & Card, D. (Eds.). (2010). HANDBOOK OF LABOR ECONOMICS, VOL 4A (Vol. 4). Elsevier.		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Presentation (50%) and class participation (50%)		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/08 23:21:09		

授業科目名 : Microeconomic Theory II (E209)		講義コード : 16177003
講義題目 : Game Theory and its applications		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 藤田 敏之
履修条件 : G30 students		
キーワード : Game of extensive form, Nash equilibrium, Dynamic game, Subgame perfect equilibrium, Adverse selection, Moral hazards		
<b>授業の概要 :</b> The course aims to help the students develop an understanding of the basic concepts of microeconomics that are necessary for application for research in all fields of economics. The focus of the course will primarily be on game theory and economics of information.		
全体の教育目標 :		
個別の教育目標 :		
<b>授業計画 :</b> Guidance 1. Basic Elements of Noncooperative Games 2. Simultaneous Move Games 3. Dynamic Games 4. Adverse Selection 5. Moral Hazards Final Exam		
授業の進め方 : Lecture		
テキスト : Mas-Colell, Whinston, and Green (1995), Microeconomic Theory, Oxford Univ. Press.		
参考書 :		
学習相談 : Contact the instructor by e-mail for inquiries.		
試験/成績評価の方法等 : Attendance 20%, Assignments: 30%, Final exam: 50%		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/08 12:54:03		

授業科目名 : Asian Multinational Corporation (E510B)		講義コード : 16177004															
講義題目 :		授業科目区分 :															
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : ラムステッター															
履修条件 :																	
キーワード : Multinational corporations, Asia																	
<b>授業の概要 :</b> This class will examine the activities of multinational corporations in a semi-intensive format (15 lectures over 8 class days). The detailed schedule follows.																	
<b>全体の教育目標 :</b> To increase understanding of multinational corporations' activities in Asia and empirical, economic analyses of those activities.																	
<b>個別の教育目標 :</b> To increase understanding of academic papers and how to write them.																	
<b>授業計画 :</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Date</th> <th>Class</th> <th>Activity</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">General Principles</td> </tr> <tr> <td>4/13</td> <td>1</td> <td>Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)</td> </tr> <tr> <td>4/20</td> <td>2</td> <td>a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5</td> </tr> <tr> <td>4/20</td> <td>3</td> <td>a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave</td> </tr> </tbody> </table>			Date	Class	Activity	General Principles			4/13	1	Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)	4/20	2	a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5	4/20	3	a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave
Date	Class	Activity															
General Principles																	
4/13	1	Introduction; a=Caves (2007) ch 1, 2; b=Carr et al. (2001)															
4/20	2	a=Caves (2007) ch 3; b=Caves (2007) ch 4; c=Caves (2007) ch 5															
4/20	3	a=Caves (2007) ch 6; b=Caves (2007) ch 7; c=Caves (2007) ch 8, d=Cave															
<b>授業の進め方 :</b>																	
<b>テキスト :</b> 1a, 2a-2c, 3a-3c, 5a: Caves, Richard E. (2007), Multinational Enterprise and Economic Analysis, third edition. Cambridge, UK: Cambridge University Press. 1b: Carr, David L., James R. Markusen, and Keith E. Maskus (2001), "Estimating the Knowle																	
<b>参考書 :</b> Please refer to the "references" or "bibliography" sections of the assigned readings.																	
<b>学習相談 :</b>																	
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Paper (about 10 A4 pages)=50% (due 7/29); 50 question true/false test=20% (7/13); Attendance, paper outlines, and presentations=30%																	
<b>その他 :</b>																	
<b>更新日付 :</b> 2016/04/13 15:07:45																	

授業科目名 : Operations Research (E510A)		講義コード : 16177005
講義題目 :		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 小野 廣隆
履修条件 : [Prerequisite] Basic knowledge about mathematical programming		
キーワード :		
<b>授業の概要 :</b> Reading papers/books about the following topics and discuss about them: Operations Research, algorithmic game theory.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand techniques, principle, validity and applications of Mathematical Programming/Optimization from the viewpoint of "algorithms and computation".		
<b>個別の教育目標 :</b> Besides understanding basic concepts about "problems", "model", "solutions" and "algorithms" in terms of mathematical programming, learn the solvability and computational hardness of problems.		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2-15. Presentation and Discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar Style		
<b>テキスト :</b> [Text] Not decided yet, and decide it on the first class. Last year's test: Easley, Kleinberg: Networks, Crowds, and Markets, Cambridge 2010.		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Evaluation of presentations and discussions.		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/06 16:12:25		

授業科目名 : Macroeconomic Theory II (E510B)		講義コード : 16177006
講義題目 : macroeconomics		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 宮澤 健介
履修条件 :		
キーワード : Dynamic macroeconomics, Real business cycle		
<b>授業の概要 :</b> The aim of this course is to promote an understanding of the basic models of dynamic macroeconomics. We discuss issues in RBC from both theoretical and empirical standpoints.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand several basic topics of dynamic macroeconomics.		
<b>個別の教育目標 :</b> To get some ideas for your thesis.		
<b>授業計画 :</b> We study real business cycle (RBC) models and related empirics. Several papers will be assigned. Students are required to read these papers before class, and have some quizzes.		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture		
<b>テキスト :</b>		
<b>参考書 :</b> Advanced Macroeconomics, David Romer, McGraw-Hill/Irwin The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, George McCandless, Harvard University Press Recursive macroeconomic theory, Lars Ljungqvist, Thomas J. Sargent, The MIT Pr		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Quizzes and Assignments.		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/09/26 09:02:39		



授業科目名 : Topics in Economics (Comparative Institutional Analysis I)		講義コード : 16177008
講義題目 : Comparative Institutional Analysis I		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 磯谷 明德
履修条件 :		
キーワード :		
授業の概要 : The content of this class is the same as that of Frontier Study in Comparative Economic Institutions I (比較経済制度特研 I) .		
全体の教育目標 :		
個別の教育目標 :		
授業計画 :		
授業の進め方 :		
テキスト :		
参考書 :		
学習相談 :		
試験／成績評価の方法等 :		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/14 09:25:56		

授業科目名 : Topics in Economics (Empirical Corporate Finance and Governan		講義コード : 16177009
講義題目 : Research on Corporate Finance and Governance		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 内田 交謹
履修条件 : To have strong interests in corporate finance and governance research. This course is designed for students who have basic knowledge on corporate finance. I would not suggest M1 non-finance students to take this course.		
キーワード : Corporate governance, Corporate board, Mergers and acquisitions, Cash holdings, Executive compensation		
<b>授業の概要 :</b> 本講義では、コーポレートファイナンス・ガバナンス分野における実証論文の読み方をレクチャーした上で、取締役会、M&A、現金保有、経営者報酬等に関する著名な論文について議論し、当該分野の研究力を養成する。 This course instructs how to read empirical papers on corporate finance and governance, and then discusses well-known papers on corporate boards, M&A, cash holdings, executive compensation, and so on. The ultimate goal of this course is to improve your research skills.		
<b>全体の教育目標 :</b> To know well-known ideas, theories, methodologies, and findings in corporate finance and governance research.		
<b>個別の教育目標 :</b> To be able to introduce ideas , theories, methodologies, and findings in corporate finance and governance to your own research.		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction and basics of corporate governance 2. How to read empirical papers 3. Read an empirical paper on board structure (1) 4. Read an empirical paper on board structure (2) 5. Read an empirical paper on M&A (1) 6. Read an empirical paper on		
<b>授業の進め方 :</b> I would upload PPT in advance which includes questions. I would explain important issues and students are asked to respond to the questions. Then, we will further discuss.		
テキスト :		
参考書 :		
学習相談 : Appointment by e-mail		
試験／成績評価の方法等 : Discussions in the classroom Assignments		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/12 08:46:47		

授業科目名 : Public Economics (E510B)		講義コード : 16177010
講義題目 : The way to empirically examine public finance and local public finance issues		授業科目区分 :
開講学期等 : 前期	単位数 : 2.0	担当教員 : 宮崎 毅
履修条件 : Nothing. But, knowledge about undergraduate-level econometrics is preferable.		
キーワード : Applied econometrics; local public finance; public finance		
<b>授業の概要 :</b> Recent public finance and local public finance studies explore relevant topics, such as taxation, social security, public debt and an interaction between the central and local governments, using game theory, contract theory and political economy model. Related empirical researches have increased with an increase in available data and progress in computer technology. This course learns applied econometrics related to empirical examination of public finance and local public finance by reading a textbook.		
<b>全体の教育目標 :</b> To learn knowledge on applied econometrics relevant to empirical public finance and local public finance		
<b>個別の教育目標 :</b> To understand applied econometrics and be able to read empirical papers		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction and guidance 2-. Presentation and discussion (the first topic will be presented by the lecturer)		
<b>授業の進め方 :</b> Basically, students present the contents of the textbook		
<b>テキスト :</b> Angrist, J. D. and J. Pischke, Mostly Harmless Econometrics, Princeton University Press.		
<b>参考書 :</b> To be presented in class		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Attendance and discussion: 50%; presentation: 50%		
<b>その他 :</b> Students should attend every class		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/09 10:07:15		

授業科目名 : Research Workshop (E209)		講義コード : 16177011
講義題目 : Research Workshop		授業科目区分 :
開講学期等 : 通年	単位数 : 2.0	担当教員 : 内田 交謹
履修条件 :		
キーワード :		
<b>授業の概要 :</b> 毎回、研究者をスピーカーとして招聘し、研究報告を行う。 Invited researchers will present their latest research.		
<b>全体の教育目標 :</b> To know the latest research trends in various fields of economics.		
<b>個別の教育目標 :</b> To get hints and know useful research methodologies for your own work.		
<b>授業計画 :</b> See the following website for workshop schedule. <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~kuchida/Workshop.html">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~kuchida/Workshop.html</a> Workshop information is also available from the website of Faculty of Economics, Kyushu University. <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/reserchwo">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/kyoumu/reserchwo</a>		
<b>授業の進め方 :</b> 90 minutes for research presentation including Q&A. Participants can interrupt the speaker for questions anytime. Workshop time is usually 16:40-18:10, but it is subject to change.		
テキスト :		
参考書 :		
学習相談 :		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> Attendance consists of a significant portion of grading. Students may be asked to present a paper. This course started on last October, and this Spring semester is the second half. Successful students would get 2 credits by the one-year course.		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/12 08:58:07		

授業科目名 : Econometrics II		講義コード : 16177012
講義題目 : Applied Econometric Time Series		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 前期集中	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 :		
キーワード : Stationarity, nonstationarity, unit root, multivariate series, cointegration, nonlinear time-series models		
<b>授業の概要 :</b> This lecture will provide a first step to applied time series analysis. Mainly we focus on stationary and nonstationary time series models, volatility, cointegration, error-correction models, and finally nonlinear time models.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand how to analyze time series data		
<b>個別の教育目標 :</b> A first step to applied time series analysis		
<b>授業計画 :</b> 1. Difference equations 2. Stationary time-series models 3. Modeling volatility 4. Models with trend 5. Multiequation time-series models 6. Cointegration and error-correction models 7. Nonlinear models and breaks Note: This schedule may be change		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture		
<b>テキスト :</b> Enders, W. (2014) Applied Econometric Time Series 4th ed., Wiley		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> The percentage of attendance (50%), short term paper (50%)		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/03/16 16:38:35		

授業科目名 : Topics in Economics (Applied Econometr (E510A))		講義コード : 16177013
講義題目 : Applied Econometrics II		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 : To be interested in applied econometrics		
キーワード : Econometrics		
<b>授業の概要 :</b> Read academic papers on theoretical and/or applied econometrics.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read and understand academic papers in econometrics		
<b>個別の教育目標 :</b> To develop an ability to understand and use techniques in econometrics		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2.-15. Presentation and discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar		
<b>テキスト :</b>		
<b>参考書 :</b> Selected papers		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> Presentation and discussion		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/22 11:35:25		

授業科目名 : Econometrics I (E510A)		講義コード : 16177014
講義題目 :		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 瀧本 太郎
履修条件 :		
キーワード : Ordinary least squares, heteroskedasticity, endogeneity, instrumental variables, maximum likelihood estimation		
<b>授業の概要 :</b> This course will provide a first step to econometrics. Mainly we focus on linear regression, heteroscedasticity, autocorrelation, endogeneity, and maximum likelihood estimation.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand the basic knowledge of econometrics		
<b>個別の教育目標 :</b> To be able to analyze the cross-section data		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction 2. An introduction to linear regression 3. Interpreting and comparing regression models 4. Heteroskedasticity and autocorrelation 5. Endogeneity, instrumental variables and GMM 6. Maximum likelihood estimation and specification tests		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture		
<b>テキスト :</b> Verbeek 2012 A Guide to Modern Econometrics Wiley		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> The percentage of attendance (50%), short term paper (50%)		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/10/03 08:02:18		

授業科目名 : Topics in Economics (Behavioral Finance (E510A))		講義コード : 16177015
講義題目 : Behavioral Finance		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 木成 勇介
履修条件 : Those who have enough knowledge on Macroeconomics, Microeconomics, Econometrics, and Finance.		
キーワード : Efficient market, Anomaly, Noise, Bias		
<b>授業の概要 :</b> 行動ファイナンスに関する最重要論文を読むことを通じて、行動ファイナンスの基本的な考え方を学ぶ。 This course offers basic concepts of behavioral finance by reading seminal papers in the field.		
<b>全体の教育目標 :</b> You will be able to improve your own financial decision using insights from behavioral finance.		
<b>個別の教育目標 :</b> You will be able to understand the essence of behavioral finance.		
<b>授業計画 :</b> No. 1: Guidance No. 2 to 15: Presentation and Discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Reading list will be offered in the first class. You will be expected to choose one of them and introduce the paper to other participants. Instructor gives you basic concepts of behavioral finance in advance to make it easy to read and understand the r		
<b>テキスト :</b> Reading list will be offered in the first day of class.		
<b>参考書 :</b> Reading list will be offered in the first day of class.		
<b>学習相談 :</b> Anytime		
<b>試験 / 成績評価の方法等 :</b> Attendance (20%), Presentation (30%), Class participation (30%), Assignments (20%)		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/08/17 17:28:35		

授業科目名 : Information System (E510A)		講義コード : 16177016
講義題目 :		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 古川 哲也
履修条件 :		
キーワード :		
授業の概要 : This course focuses on the current research issues of information technologies for analyzing data, including data mining, big data analysis.		
全体の教育目標 : To understand current research topics of the information technologies.		
個別の教育目標 :		
授業計画 : 1. Introduction and guidance 2-15. Presentations and discussions		
授業の進め方 : Students present research papers and discuss the idea of the papers.		
テキスト : Recommended textbooks will be shown in the class.		
参考書 :		
学習相談 :		
試験/成績評価の方法等 : Attendance 20% Discussion 30% Presentation 50%		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/06 22:56:56		

授業科目名 : Labor Economics (E510B)		講義コード : 16177017
講義題目 : Labor Economics		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 橋本 由紀
履修条件 : This class is intended for students with basic knowledge of econometrics and micro economics.		
キーワード : Wages, Working Hours, Human capitals, Unemployment		
<b>授業の概要 :</b> This course will focus on labor market institution operating in imperfect labor markets. Topics include theoretical and empirical approaches to human capital and wage determination, wage income inequality, unemployment and minimum wages, working hours, unions, implicit contract theory, efficiency wage hypothesis, and active labor market policies.		
<b>全体の教育目標 :</b> The objectives for this course are to: 1) have developed an understanding of how labor markets work in theory and in practice 2) be able to make an evaluation of current policy debates in the area		
<b>個別の教育目標 :</b>		
<b>授業計画 :</b>		
1 Labor Market: An Overview 2 Minimum Wages 3 Unions and Collective Bargaining 4 Payroll Taxes 5 Regulation of Working Hours 6 Retirement Programs 7 Family Policies 8 Education and Training 9 Migration Policies 10 Employment Protection Legislatio		
<b>授業の進め方 :</b> This is a seminar-style class. Class will involve discussions, lectures, and reading.		
<b>テキスト :</b> Boeri, Tito, and Jan Van Ours. The Economics of Imperfect Labor Markets (second edition). Princeton University Press, 2013. Cahuc, Pierre, Stéphane Carcillo, and André Zylberberg. Labor Economics (second editon), MIT press, 2014.		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b> Appointment by e-mail		
<b>試験 / 成績評価の方法等 :</b> Grades will be determined by in-class presentation (50%) and class participation (50%).		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/09/21 20:34:52		

授業科目名 : Asian Economic Research I (E510B)		講義コード : 16177018
講義題目 : Environmental Issues and Policies in Asia		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 今井 健一
履修条件 : 特になし		
キーワード : Asia, environmental issues, environmental policies, environmental economics		
<p><b>授業の概要 :</b>          授業の前半では、環境経済学の基本的理論と概念を学ぶとともに、それらがアジアで現実に行き起している環境問題の分析(背景・原因や政策)にどのように応用できるかについて学びます。そして、授業の後半では、国際学術誌からの論文あるいは参考文献を用いて、アジアの環境問題にかかるいくつかのトピックについて(例えば、再生可能エネルギー)議論をし、理解を深めます。国際学術誌論文あるいは参考文献のコピーは事前に配布します。また、学生は、事前に配布された国際学術誌論文についてクラスで発表することが求められます(授業全スケジュール中)</p> <p>A first half of the course focuses on basic theories and concepts in environmental economics and their applications to real-world issues in Asia. Then, a second half of the course focuses on several selected issues and discuss them in detail. Selected articles from international journals and other materials are used for class discussion. They will be distributed to students in advance. During the course students are requested to make class presentation on assigned articles.</p>		
<p><b>全体の教育目標 :</b>          Through this course students familiarize themselves with major environmental issues in Asia and have a better understanding on an economic analysis of environmental issues and policies.</p>		
<p><b>個別の教育目標 :</b>          It is expected that students increase their abilities to read and write academic papers as well as to make presentation.</p>		
<p><b>授業計画 :</b></p> <p>第1回(10/5, 13:00-14:30) Introduction          第2回(10/12, 13:00-14:30) Foundations (1)          第3回(10/12, 14:50-16:20) Foundations (2)          第4回(10/26, 13:00-14:30) Environmental Pollution (1)          第5回(10/26, 14:50-16:20) Environmental Pollution (2)          第6回(11/9, 13:00-14:30)</p>		
<p><b>授業の進め方 :</b> Lecture or paper presentation 60 minutes          Discussion 30 minutes</p>		
<p><b>テキスト :</b> Text: Perman, Roger, Yue Ma, James McGilvary, and Michael Common (2012), Natural Resource and Environmental Economics 4th edition, Essex: Pearson Education Limited.</p>		
<p><b>参考書 :</b> Reference materials: Selected articles</p>		
<p><b>学習相談 :</b> After the class or by email.</p>		
<p><b>試験/成績評価の方法等 :</b> Term Paper: 50%          Class participation and presentation: 30%          Test: 20%</p>		
<p><b>その他 :</b> In principle, classes are held once (Wednesday, 13:00-14:30 &amp; 14:50-16:20) every two weeks. Check this syllabus for class schedule.</p>		
<p><b>更新日付 :</b> 2016/09/13 19:09:05</p>		

授業科目名 : Asian Economic Research II (E510B)		講義コード : 16177019
講義題目 : East Asia's Economic Development		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 戴 二彪
履修条件 : 主に修士・博士課程の学生(students of graduate school)を対象。 ただし、高学年の学部生も履修可能。		
キーワード : East Asia, Economic Development, FDI, Trade, Migration, Income inequality		
<b>授業の概要 :</b> 講義は英語で行われる。 Firstly, this course will review the recent trends in East Asian economic development and discuss the features of East Asian development model. Then, the mechanism of East Asian economic development and some problems faced by this region will be discussed and analyzed in detail. The reference papers used for class discussion are selected from international journals and other sources. References for each lecture will be distributed to the participants in advance. All students are requested to make class presentation based on reference papers.		
<b>全体の教育目標 :</b> Through this course students are expected to (1) have a better understanding on the mechanism of East Asian economic development (2) have an overall view on the major problems which East Asian countries are facing (3) master some useful app		
<b>個別の教育目標 :</b> Students are trained to improve their ability to read, write, and present English paper.		
<b>授業計画 :</b> 第1回 (PM 14:50-16:20, 10/5) Introduction 第2回 (PM 13:00-14:30, 10/19) Recent trends in East Asian economic development 第3回 (PM 14:50-16:20, 10/19) The East Asian model of economic development 第4回 (PM 13:00-14:30, 11/2) Trends of Japan's Economic Growth 第		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture or paper presentation: 60 minutes (×2) Discussion: 30 minutes (×2)		
<b>テキスト :</b> No		
<b>参考書 :</b> 1. Papers selected from international academic journals 2. Other important papers and books		
<b>学習相談 :</b> E-mail: dai22eb@gmail.com		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Term paper: 50% Class participation and presentation: 50%		
<b>その他 :</b> Basically, classes are held once every two weeks (PM 13:00-16:20, Wednesday)		
<b>更新日付 :</b> 2016/09/29 15:04:45		

授業科目名 : Macroeconomic Theory I (E510B)		講義コード : 16177020
講義題目 : Studying advanced macroeconomics using dynamic optimization.		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 池下 研一郎
履修条件 : No prerequisites.		
キーワード : Neoclassical growth model, dynamic optimization		
<b>授業の概要 :</b> In this course, you will be able to study some basic concepts of advanced macroeconomics. Moreover you will be able to acquire tools of dynamic optimization and apply them to real economic problems. In this course, you will be able to study some basic concepts of advanced macroeconomics. Moreover you will be able to acquire tools of dynamic optimization and apply them to real economic problems.		
<b>全体の教育目標 :</b> Learning advanced macroeconomic models with dynamic optimization and applying them to economic analyses.		
<b>個別の教育目標 :</b> You will be able to <ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand about ways of dynamic optimization and apply them to macroeconomic models,</li> <li>• Read scientific papers on macroeconomics using dynamic optimization,</li> <li>• Discuss about real macroeconomic problems using knowledge of advanced macr</li> </ul>		
<b>授業計画 :</b> In this course, you will be able to study advanced macroeconomics through discussion with teacher and other students. Moreover, you will be able to learn it more effectively with some assignments. Course contents: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Production</li> <li>3. S</li> </ol>		
<b>授業の進め方 :</b> Lecture		
<b>テキスト :</b> Barro, R. J. and X. Sala-i-Martin. Economic Growth, 2nd edition, The MIT Press, 2003.		
<b>参考書 :</b> • Romer, D. Advanced Macroeconomics, 4th edition, McGraw-Hill/Irwin, 2012.		
<b>学習相談 :</b> Office hours: Friday 10:00-12:30. If you want to make appointment, feel free to send a message to me.		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Attendance to at least two-thirds of classes is required. <ul style="list-style-type: none"> <li>• Attendance rate : 40%</li> <li>• Quiz : 30%</li> <li>• Assignment : 30%</li> </ul>		
<b>その他 :</b> Students are supposed to study macroeconomic models carefully. You have to spend enough in preparation for this class		
<b>更新日付 :</b> 2016/09/23 16:11:17		

授業科目名 : Topics in Economics (Mathematical Progra (E510A)		講義コード : 16177021
講義題目 :		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 小野 廣隆
履修条件 : [Prerequisite] Basic knowledge about mathematical programming		
キーワード :		
<b>授業の概要 :</b> Reading papers/books about the following topics and discuss about them: Operations Research, algorithmic game theory.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand techniques, principle, validity and applications of Mathematical Programming/Optimization from the viewpoint of "algorithms and computation".		
<b>個別の教育目標 :</b> Besides understanding basic concepts about "problems", "model", "solutions" and "algorithms" in terms of mathematical programming, learn the solvability and computational hardness of problems.		
<b>授業計画 :</b> 1. Guidance 2-15. Presentation and Discussion		
<b>授業の進め方 :</b> Seminar Style		
<b>テキスト :</b> [Text] Not decided yet, and decide it on the first class. Last year's test: Easley, Kleinberg: Networks, Crowds, and Markets, Cambridge 2010.		
<b>参考書 :</b>		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b> Evaluation of presentations and discussions.		
<b>その他 :</b>		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/06 16:13:30		

授業科目名 : Topics in Economics (Comparative Institu (E510B)		講義コード : 16177022
講義題目 : Comparative Institutional Analysis II		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 磯谷 明德
履修条件 :		
キーワード :		
授業の概要 : The content of this class is the same as that of Frontier Study in Comparative Economic Institutions II (比較経済制度特研II).		
全体の教育目標 :		
個別の教育目標 :		
授業計画 :		
授業の進め方 :		
テキスト :		
参考書 :		
学習相談 :		
試験/成績評価の方法等 :		
その他 :		
更新日付 : 2016/04/14 09:24:19		

授業科目名 : Financial Economics (E209)		講義コード : 16177023
講義題目 : Financial Economics		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 内田 交謹
履修条件 : To have strong interests in economic principles of capital market issues such as pricing, risk-return relation, determinants of stock returns.		
キーワード : Stock market, Risk-return relation, CAPM, 3-factor model, 4-factor model		
<b>授業の概要 :</b> 本講義では、株式リターンに影響する有名なファクター及びリスク・リターン関係について解説する。前半では、ポートフォリオマネジメントやCAPMなどの古典的な(学部レベルの)理論について解説し、後半で、3-factor model、4-factor model などの近年有力になっている考え方を説明する。これらの内容は、株式市場について理解するとともに、先端的なコーポレートファイナンス研究を行う上でも非常に重要であり、これらの理論を取り入れた論文についても議論する。時間があれば、オプション評価とリアルオプション This course instructs well-known factors associated with cross-sectional stock returns and risk-return relation. The lecture starts with classical (undergraduate-level) theories such as portfolio management and CAPM, and then moves on to advanced issues like 3-factor model and 4-factor model. Those issues are essential to conduct advanced corporate finance research as well as to understand the stock market. We also review empirical papers which introduce those insights. If time allows, we will discuss fundamental theories of option pricing and real option.		
<b>全体の教育目標 :</b> To understand well-known theories and findings in the research of stock returns.		
<b>個別の教育目標 :</b> To be able to incorporate knowledge of capital market issues in your own research.		
<b>授業計画 :</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course guidance and basics of finance</li> <li>2. Portfolio management</li> <li>3. Risk-return relation: CAPM</li> <li>4. Efficient market hypothesis</li> <li>5. Read an empirical paper on fund manager performance</li> <li>6. Arbitrage pricing model (APT)</li> <li>7. Fama-French 3-factor model</li> <li>8. R</li> </ol>		
<b>授業の進め方 :</b> I will get you PPT which includes questions and explanations on the specific issue in advance. Students are asked to answer to the questions after my explanations. Questions are always welcome.		
<b>テキスト :</b> This course does not use specific textbook. I strongly suggest to read the Bidie et al.'s book on investments.		
<b>参考書 :</b> Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus, Investments, McGraw Hill.		
<b>学習相談 :</b> Appoint by e-mail		
<b>試験/成績評価の方法等 :</b>		
<b>その他 :</b> Discussion Assignments Exam.		
<b>更新日付 :</b> 2016/09/23 17:52:10		

授業科目名 : Topics in Economics (Public Finance) (E510A)		講義コード : 16177024
講義題目 : Graduate-level public finance and local public finance		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 宮崎 毅
履修条件 : Nothing. But, knowledge about undergraduate-level microeconomics and econometrics is preferable.		
キーワード : Boundary reform; intergovernmental relation; redistribution; taxation		
<b>授業の概要 :</b> In this course, participants will read cutting-edge papers on public finance and local public finance. This course mainly focuses on empirical papers on the following topics: income taxation, redistribution, boundary reform, tax and fiscal competition and intergovernmental transfers. For each topic in lectures, we first read basic papers or textbooks and then recent journal articles.		
<b>全体の教育目標 :</b> To read recent papers on public finance and local public finance		
<b>個別の教育目標 :</b> To understand cutting-edge topics on public finance and local public finance and be able to read relevant papers		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction and guidance 2-. Presentation		
<b>授業の進め方 :</b> Basically, students present the contents of assigned papers and textbooks		
<b>テキスト :</b> To be instructed in the first class		
<b>参考書 :</b> To be presented in class		
<b>学習相談 :</b>		
<b>試験／成績評価の方法等 :</b> Attendance and discussion: 50%; presentation: 50%		
<b>その他 :</b> Students should attend every class		
<b>更新日付 :</b> 2016/04/09 10:10:04		

授業科目名 : Industrial Organization (E510B)		講義コード : 16177025
講義題目 : Managerial Economics		授業科目区分 :
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 堀 宣昭
履修条件 :		
キーワード :		
<b>授業の概要 :</b> The aim of this course is to provide tools for the better understanding of the business environment and the improvement of managerial decisions and reasoning based on the theories of the Microeconomics and Industrial Organization.		
全体の教育目標 :		
個別の教育目標 :		
<b>授業計画 :</b> 1. Introduction to Managerial Economics 2. Demand 3. Elasticity 4. Supply 5. Market Equilibrium 6. Economic Efficiency 7. Costs 8. Monopoly 9. Pricing 10. Strategic Thinking 11. Oligopoly 12. Externalities 13. Asymmetric Information		
授業の進め方 : Lecture		
テキスト : Ivan Png, "Managerial Economics," 5th Edition, Routledge; 2015.		
参考書 :		
学習相談 :		
試験/成績評価の方法等 : Report 40% Examination 60%		
その他 :		
更新日付 : 2016/09/27 16:13:35		

授業科目名 : Microeconomic Theory I (E510B)		講義コード : 16177026
講義題目 : Price Theory		授業科目区分 : 基本科目
開講学期等 : 後期	単位数 : 2.0	担当教員 : 堀 宣昭
履修条件 :		
キーワード :		
<b>授業の概要 :</b> This is a core course of the International Program, and covers the domain known as the Price Theory.		
全体の教育目標 :		
個別の教育目標 :		
<b>授業計画 :</b> 1. Consumer Theory 2. Producer Theory 3. Market Equilibrium 4. Market Failure 5. Monopoly		
授業の進め方 : Lecture		
テキスト : Hal R. Varian, "Microeconomic Analysis," Third Edition, WW Norton & Co, 1992.		
参考書 : Hal R. Varian, "Intermediate Microeconomics: A Modern Approach," WW Norton & Co, 2015.		
学習相談 :		
試験/成績評価の方法等 : Report 40% Examination 60%		
その他 :		
更新日付 : 2016/09/27 15:26:03		